

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人群馬大学
学 長 石崎 泰樹

群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地
氏名	国立大学法人群馬大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

群馬大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番15号
電話(027) 220 - 7111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
上記のほか、内分泌糖尿病内科、脳神経内科、腫瘍内科として医療を提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
上記のほか、乳腺・内分泌外科として医療を提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	臨床検査科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	形成外科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	9	0	680	731

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	287	372	512	看護補助者	33	診療エックス線技師	0
歯科医師	8	26	23	理学療法士	18	臨床検査技師	78
薬剤師	48	0	48	作業療法士	5	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	11	その他	0
助産師	32	0	32	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	798	44	829.6	臨床工学士	24	医療社会事業従事者	9
准看護師	0	1	0.2	栄養士	0	その他の技術員	9
歯科衛生士	2	0	2	歯科技工士	2	事務職員	294
管理栄養士	11	0	11	診療放射線技師	59	その他の職員	5

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	61	眼科専門医	12
外科専門医	29	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	11	放射線科専門医	19
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	15
泌尿器科専門医	15	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	21	救急科専門医	7
		合計	266

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (齋藤 繁) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療業務安全管理委員会委員長(令和3年4月から現在まで)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	558.6 人	13.3 人	571.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,771.0 人	84.7 人	1,855.7 人
1日当たり平均調剤数			268 剤
必要医師数			158.375 人
必要歯科医師数			6.235 人
必要薬剤師数			20 人

必要(准)看護師数	348 人
-----------	-------

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1276 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	17 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	404 m ²	病床数	10 床	
	[移動式の場合]	台数	- 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	62 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	619 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	臨床化学・免疫自動検査システム, 血液検査システム		
細菌検査室	78 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	細菌同定感受性総合検査システム		
病理検査室	116 m ²	鉄骨造	(主な設備)	自動標本染色装置, ミクロトーム他		
病理解剖室	208 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台 他		
研究室	12,750 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	パソコン, 実験台, 遠心分離機, 書籍棚他		
講義室	1,365 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	3 室	収容定員	522 人
図書室	2,413 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	2 室	蔵書数	130,718 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	97.2 %	逆紹介率	127.4 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	15,583	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	23,984	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,704	人
	D: 初診の患者の数	18,823	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者団体連合 会 理事長 一般社団法人グルー プ・ネクサス・ジャパン 理事長		患者団体の代表として 多くの経験及び医療の 在り方に対しての高い 識見を有し、主に医療 を受ける者の立場から 意見を述べることがで きる者	無	2
神谷 恵子	神谷法律事務所 弁護士		弁護士活動を通じた医 療安全等の分野で高い 識見を有し、また本院 の医療事故調査委員会 の外部委員の経験から 意見を述べることがで きる者	無	1
川原 武男	社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会 会長		県域の健康福祉行政に 豊富な経験を有する立 場及び医療を受ける立 場から意見を述べるこ とができる者	無	2
相馬 孝博	国立大学法人千葉大学 医学部附属病院医療安 全管理部 部長	○	医師及び医療安全管 部門の長として医療安 全の分野で高い見識を 有する立場から意見を 述べるができる者	無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		県域の医療・社会福祉 に豊富な経験と知見を 有し、医学教育に対し ても高い識見を有する 立場から意見を述べる ことができる者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 大学ホームページに掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
重粒子線治療	26人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	45人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	2人
細胞診検体を用いた遺伝子検査	0人
子宮内細菌叢検査2(フローラ検査)	13人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	91人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	0人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	マイトラクリップ	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル的修復術			
医療技術名	マーシャル静脈アブレーション	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 難治性心房細動に対して、マーシャル静脈にエタノールを注入することで心房細動を治療する化学的アブレーション			
医療技術名	左心耳閉鎖術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 出血リスクの高い心房細動患者に対する経カテーテル的な左心耳閉鎖デバイスの留置術			
医療技術名	心外膜アブレーション	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性心室頻拍に対して経皮的に心外膜からアプローチして心筋焼灼する技術			
医療技術名	侵襲的心肺運動負荷試験	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 原因不明の労作時呼吸困難患者あるいは肺高血圧患者に対して、運動中の血行動態把握のための右心カテーテル検査			
医療技術名	インペラ(補助循環用ポンプカテーテル)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 超小型ポンプを内蔵したカテーテルを左室内にいて血液を吸入し、大動脈内から駆出する補助循環技術			
医療技術名	アテローム切除アブレーション式血管形成術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 高度石灰化した冠動脈病変を衝撃波を血管内から照射して石灰化を破砕するカテーテル治療			
医療技術名	難治性喘息・難治性好酸球性疾患に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	74
当該医療技術の概要 難治性喘息や好酸球性多発血管炎性肉芽腫症において、的確な生物学的製剤を用いて病態を制御する治療			
医療技術名	早期十二指腸悪性腫瘍粘膜下層剥離術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 十二指腸腫瘍に対して内視鏡治療として全身麻酔下で内視鏡的粘膜下層剥離術を行う。			
医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)／SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	55
当該医療技術の概要 リアルタイムCGMを併用し、携帯型インスリンポンプを可変的かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法			
医療技術名	核酸医薬を用いた脊髄性筋萎縮症に対する新規治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 SMN(survival motor neuron)2遺伝子のmRNA前駆体のintron7に相補的に結合し、本来欠失するexon7を含む完全長のSMN蛋白を作らせるアンチセンス核酸医薬を髄注することで症状の改善を図る新規治療。			

医療技術名	難治性神経疾患ならびに遺伝性疾患に対する遺伝子検査ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 希少疾患に対する豊富な知識と遺伝学的カウンセリングがともに行える環境が必要である。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	94
当該医療技術の概要 胸部・腹部大動脈瘤に対して開胸・開腹を加えずに血管内で治療が可能。			
医療技術名	弁形成術	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 弁膜症に対して人工弁を使わずに形成のみで治療を行う。(ワーファリンなどの投薬が不要となる。)			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 狭心症に対する治療で人工心肺を使用せず、拍動下で行う治療。			
医療技術名	腹腔鏡下およびロボット支援下括約筋間直腸切除術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 肛門を閉鎖する筋肉のうち内肛門括約筋のみを切除し外肛門括約筋は残して自然肛門を温存する手術を患者さんのご希望と根治性を加味して、腹腔鏡下およびロボット支援下で行う。			
医療技術名	腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 骨盤内悪性腫瘍が局所進行し、骨盤内の複数臓器に浸潤した場合に適応される根治的外科手術のひとつで、開腹手術に比べ低侵襲化を目的として腹腔鏡を用いて行う。			
医療技術名	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 高度肥満症に対して、胃の縮小術を行うことで減量効果に加えて肥満に関連した合併症治療により生命予後を改善することを目的に実施している。			
医療技術名	(ロボット支援)胸腔鏡下/腹腔鏡下胸部食道亜全摘術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌に対して、縦隔リンパ節郭清を要する症例に適応される低侵襲かつ高精度な外科的治療法である。			
医療技術名	下縦隔内再建を伴う経裂孔的下部食道噴門側胃切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌に対して開胸を回避し、低侵襲に根治切除と再建を行う手術手技である。			
医療技術名	遊離皮弁を用いた乳房再建術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 乳房再建手術において遊離皮弁を用いた再建を行う。			
医療技術名	小児における急性血液浄化療法(体外循環を用いる)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児の急性腎障害、多臓器不全などに対して、体外限外濾過、血液濾過、血液濾過透析、血液透析を行う。体格の小さい小児に対するブラッドアクセスとその管理や鎮静を含む全身管理には集学的な高度医療を要する。			
医療技術名	小児慢性腎不全に対する腹膜透析療法・管理	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 小児における保存期および末期腎不全の全身管理は成人と異なり、成長を念頭に置いた補充療法や、慢性腎不全に対する腹膜透析療法は透析処方およびカテーテル管理に高度の技術と専門性を要する。			

医療技術名	乳幼児における開放性腎生検	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 乳幼児における腎生検は腎サイズが小さいこと、局所麻酔では安全な安静が確保できないことから、全身麻酔管理下に泌尿器科医による開放性腎生検を要し、集学的な高度医療である。			
医療技術名	長時間脳波検査	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 てんかんにおける焦点特定や発作型の判定、てんかん外科の適応の判断において重要とされている。数時間～数日間の記録を必要とし、小児においては測定・記録できる施設が限られているうえに、記録・判読にも高度な技術を要する。			
医療技術名	終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 睡眠障害や夜間の呼吸障害の鑑別に有用である。測定機器を有する施設が限られており、特に小児においては計測の技術や検査結果の判読に熟練を要する。			
医療技術名	難治性疾患ならびに遺伝性疾患に対する遺伝子検査ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 希少疾患に対する豊富な知識と遺伝学的カウンセリングがともに行える環境が必要である。			
医療技術名	に対するCSII(インスリンポンプ療法)／SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 小児糖尿病患者に対する電動式携帯ポンプにより可変式かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法。			
医療技術名	小児の難治性内分泌腫瘍の薬物治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 手術不能例や再発例の下垂体性巨人症、クッシング症候群などの小児の難治性内分泌腫瘍に対し専門的な薬物療法を施行し、症状の改善を得る。			
医療技術名	小児の家族性高コレステロール血症ホモ接合体に対する抗PCSK9モノクローナル抗体製剤治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 家族性高コレステロール血症ホモ接合体小児例に対し、抗PCSK9モノクローナル抗体を投与することで、LDL吸着療法を回避する。			
医療技術名	難治性アレルギー性疾患に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 小児期発症難治性アレルギー性疾患は免疫異常を有する頻度が高く、アレルギー反応等も重篤であり、専門的な知識と対応を要する。			
医療技術名	免疫異常症に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 小児の免疫異常症は若年性特発性関節炎、ぶどう膜炎、自己炎症性疾患・炎症性腸疾患など希少な疾患が多岐にわたるため、豊富な知識と経験が必要とする。			
医療技術名	ムコ多糖症II型の中樞神経症状に対する酵素製剤の脳室内投与治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 ムコ多糖症II型患者に対し、酵素製剤Idursulfase-βの脳室内投与を行うことにより、中樞神経症状を回避する			
医療技術名	ジアゾキサイド不応性先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注射療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 ジアゾキサイド不応性高インスリン血症患者に対して、ポータブルインスリン用輸液ポンプを用いたオクトレオチド持続皮下注射を行い、低血糖症状を改善させる。			
医療技術名	小児に対する消化器内視鏡検査	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 小児では鎮静下に検査を行う必要がある他腹壁が薄いこと、成人と異なる病態により所見が異なることなどから専門的な知識と経験を要する。			

医療技術名	小児に対する同種造血幹細胞移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 小児急性白血病のうち再発例や再発高リスクの症例に対して、血縁者・骨髄バンク・臍帯血バンクからの提供を受け造血幹細胞移植を行う。日本造血・免疫細胞療法学会認定医が行う。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(広汎切除)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 早期子宮頸癌に対して、腹腔鏡下に広汎子宮全摘術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下リンパ節群郭清術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 子宮体癌から傍大動脈リンパ節群に転移したものに対して行う。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 早期子宮体癌に対して、腹腔鏡下にリンパ節生検もしくは郭清術を含む子宮悪性腫瘍手術を行う。			
医療技術名	内視鏡下拡大蝶形骨洞手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 頭蓋咽頭腫などの鞍上部腫瘍に対して内視鏡下に経鼻的に頭蓋内へ到達する術式。閉創技術の難易度が高い。			
医療技術名	Flow diverter stent留置術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 未破裂大型脳動脈瘤に対して行う。動脈瘤頸部を形成するステントを留置することで瘤内の血流を減じて母血管の内皮形成を促す。術者が限定されている。			
医療技術名	もやもや病に対する血行再建術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 難病であるもやもや病に対する脳血流維持などを目的とした血行再建術。微細血管への吻合を行うなど難易度が高い。			
医療技術名	頭蓋底部の良性腫瘍摘出術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頭蓋底部の髄膜腫や前庭神経鞘腫などの良性腫瘍に対する根治的摘出術。重要構造物が近接する部位で精細な技術を要するため、難易度が高い。また各種モニタリングを要する点でも高難度である。			
医療技術名	再建を伴う口腔癌手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 遊離皮弁、有茎皮弁を用いた再建を伴う口腔癌手術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	44
取扱い患者数の合計(人)	796

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	10	69 甲状腺ホルモン不応症	2
2 筋萎縮性側索硬化症	30	70 アジソン病	5
3 脊髄性筋萎縮症	3	71 サルコイドーシス	227
4 原発性側索硬化症	1	72 特発性間質性肺炎	109
5 進行性核上性麻痺	4	73 肺動脈性肺高血圧症	134
6 パーキンソン病	150	74 慢性血栓性肺高血圧症	14
7 大脳皮質基底核変性症	2	75 リンパ管筋腫症	12
8 ハンチントン病	2	76 網膜色素変性症	4
9 シャルコー・マリー・トゥース病	6	77 特発性門脈圧亢進症	1
10 重症筋無力症	156	78 原発性胆汁性胆管炎	131
11 多発性硬化症／視神経脊髄炎	143	79 旧病名(原発性胆汁性肝硬変) 原発性硬化性胆管炎	8
12 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	80 自己免疫性肝炎	38
13 封入体筋炎	8	81 クローン病	263
14 クロウ・深瀬症候群	1	82 潰瘍性大腸炎	280
15 多系統萎縮症	14	83 好酸球性消化管疾患	21
16 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	62	84 慢性特発性偽性腸閉塞症	1
17 ライゾゾーム病	5	85 クリオリン関連周期熱症候群	3
18 ミトコンドリア病	16	86 若年性特発性関節炎	2
19 もやもや病	66	87 旧病名(全身型若年性特発性関節炎) 筋ジストロフィー	9
20 進行性多巣性白質脳症	2	88 脊髄空洞症	9
21 特発性基底核石灰化症	1	89 脊髄髄膜瘤	1
22 全身性アミロイドーシス	31	90 アイザックス症候群	2
23 遠位型ミオパチー	1	91 脳表ヘモジデリン沈着症	1
24 自己食空腔性ミオパチー	1	92 前頭側頭葉変性症	1
25 神経線維腫症	17	93 アレキサンダー病	1
26 天疱瘡	37	94 レノックス・ガストー症候群	2
27 表皮水疱症	2	95 結節性硬化症	14
28 膿疱性乾癬(汎発型)	14	96 先天性魚鱗癬	1
29 スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	97 家族性良性慢性天疱瘡	1
30 中毒性表皮壊死症	1	98 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
31 高安静脈炎	35	99 特発性後天性全身性無汗症	6
32 巨細胞性動脈炎	4	100 眼皮膚白皮症	1
33 結節性多発動脈炎	76	101 マルフアン症候群	3
34 顕微鏡的多発血管炎	63	102 エーラス・ダンロス症候群	2
35 多発血管炎性肉芽腫症	62	103 無脾症候群	2
36 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	38	104 ウェルナー症候群	3
37 悪性関節リウマチ	10	105 プラダー・ウィリ症候群	4
38 バージャー病	47	106 ヌーナン症候群	1
39 原発性抗リン脂質抗体症候群	2	107 単心室症	3
40 全身性エリテマトーデス	588	108 左心低形成症候群	1
41 皮膚筋炎／多発性筋炎	269	109 三尖弁閉鎖症	1
42 全身性強皮症	463	110 ファロー四徴症	1
43 混合性結合組織病	69	111 急速進行性糸球体腎炎	40
44 シェーグレン症候群	478	112 抗糸球体基底膜腎炎	1
45 成人スチル病	26	113 一次性ネフローゼ症候群	2
46 再発性多発骨髄炎	11	114 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
47 ベーチェット病	110	115 オスラー病	3
48 特発性拡張型心筋症	31	116 肺動脈狭窄症候群	2
49 肥大型心筋症	29	117 α1-アンチトリプシン欠乏症	1
50 再生不良性貧血	53	118 副甲状腺機能低下症	13
51 自己免疫性溶血性貧血	19	119 偽性副甲状腺機能低下症	1
52 発作性夜間ヘモグロビン尿症	7	120 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
53 特発性血小板減少性紫斑病	65	121 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
54 血栓性血小板減少性紫斑病	3	122 フェニルケトン尿症	1
55 原発性免疫不全症候群	35	123 尿素サイクル異常症	2
56 IgA 腎症	49	124 家族性地中海熱	8
57 多発性嚢胞腎	7	125 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6
58 黄色靱帯骨化症	10	126 強直性脊椎炎	15
59 後縦靱帯骨化症	35	127 骨形成不全症	1
60 広範脊柱管狭窄症	1	128 後天性赤芽球癆	2
61 特発性大腿骨頭壊死症	55	129 総排泄腔遺残	1
62 下垂体性ADH分泌異常症	136	130 遺伝性腭炎	1
63 下垂体性TSH分泌亢進症	7	131 IgG4関連疾患	22
64 下垂体性PRL分泌亢進症	45	132 黄斑ジストロフィー	3
65 クッシング病	23	133 好酸球性副鼻腔炎	63
66 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	36	134 遺伝性自己炎症疾患	1
67 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	40	135 無虹彩症	1
68 下垂体前葉機能低下症	475	136 特発性多中心性キャッスルマン病	6

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	136
合計患者数(人)	5,849

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・術後疼痛管理チーム加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・バイオ後続品使用体制加算
・歯科外来診療医療安全対策加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療感染対策加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・入退院支援加算1
・超急性期脳卒中加算	・認知症ケア加算2
・診療録管理体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・地域医療体制確保加算
・看護職員夜間配置加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護補助加算	・特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・放射線治療病室管理加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・ニコチン依存症管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料イ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ロ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料1
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料(歯科)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・歯科治療時医療管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・救急患者連携搬送料
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料2	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・腎代替療法指導管理料	・染色体検査の注2に規定する施設基準
・一般不妊治療管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・生殖補助医療管理料1	・BRCA1/2遺伝子検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・二次性骨折予防継続管理料3	・先天性代謝異常症検査
・下肢創傷処置管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・CT撮影及びMRI撮影
・国際標準検査管理加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・乳房MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・小児鎮静下MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・頭部MRI撮影加算
・人工臓器検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・神経学的検査	・無菌製剤処理料
・補聴器適合検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・コンタクトレンズ検査料1	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・リンパ浮腫複合的治療料
・内服・点滴誘発試験	・児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)
・センチネルリンパ節生検(片側)	・療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・認知療法・認知行動療法1
・精密触覚機能検査	・精神科作業療法
・画像診断管理加算1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・画像診断管理加算4	・医療保護入院等診療料
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・人工腎臓
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・ストーマ合併症加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・人工脾臓療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・手術用顕微鏡加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・口腔粘膜処置	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1))
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緊急穿頭血腫除去術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・内視鏡下筋層切開術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・羊膜移植術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・網膜再建術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)

施設基準の種類	施設基準の種類
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・同種死体腎移植術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・生体腎移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰囊水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下仙骨腔固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・生体部分肝移植術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管理料Ⅰ
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・輸血適正使用加算

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・コーディネート体制充実加算	・口腔病理診断管理加算2
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・歯周組織再生誘導手術	・看護職員処遇改善評価料64
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・歯根端切除手術の注3	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・口腔粘膜血管腫凝固術	・入院ベースアップ評価料74
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・周術期薬剤管理加算	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・一回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・粒子線治療	・
・粒子線治療適応判定加算	・
・粒子線治療医学管理加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	・
・ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	・
・重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	・
・重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。	
	2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	4

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択す(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
リップル波とグローバルネットワークによる統合失調症の包括的理解	武井 雄一	神経精神医学分野	6,240,000	補委	日本学術振興会
エピゲノム変異不均一性を指標にした初期胚・胎児期環境のエピゲノムへの影響評価	秦 健一郎	分子細胞生物学分野	3,770,000	補委	日本学術振興会
Inflammaging－細胞老化を標的とした卵巣機能長寿化への挑戦	岩瀬 明	産科婦人科学分野	3,900,000	補委	日本学術振興会
神経性やせ症の「不確実性への不耐性」のバイオマーカー研究	須田 真史	精神科神経科	650,000	補委	日本学術振興会
Tissue Engineeringによる消化管内視鏡的粘膜切除術後狭窄予防法の確立	竹内 洋司	光学医療診療部	1,170,000	補委	日本学術振興会
心房細動の発生・維持におけるMarshall静脈の不整脈源性の機序解明	中谷 洋介	不整脈非薬物治療研究講座	1,820,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸組成バランスとParkin発現・マイトファジーによる肺気腫化・線維化の解明	横山 知行	生体情報検査科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
急性期褥瘡におけるフェロトシス制御機構と新規治療への応用	茂木 精一郎	皮膚科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
難病データベースとイオンビーム工学技術を応用した全身性強皮症の病態解明	古賀 康彦	呼吸器・アレルギー内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
腸内環境を考慮した大腸癌の個別化医療・予防法の確立	岡田 拓久	消化管外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
癌細胞の電位依存性Naチャンネルを標的とした局所麻酔薬による抗腫瘍効果の解明	鈴木 景子	麻酔神経科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシーの発症機序解明:IgE関与の有無について	折原 雅紀	集中治療部	1,430,000	補委	日本学術振興会
ニコチン依存性アセチルコリン受容体とアナフィラキシー BATを用いた検証	船引 亮輔	麻酔・集中治療科	2,340,000	補委	日本学術振興会
高齢頸髄損傷の治療成績改善にむけた非侵襲血圧維持療法BP augmentationの開発	筑田 博隆	整形外科科学分野	2,210,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄同時計測機能的MRIに着目した痛みとしびれの客観的重症度評価法の基盤構築	高澤 英嗣	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
死後冠動脈造影CTと心臓MRIによる冠動脈疾患の新たな死因究明法-虚血心筋の自動解析	徳江 浩之	放射線部	1,170,000	補委	日本学術振興会

前腕伸筋群の筋・腱の弾性度はテニス肘発症の予測因子となりうるか？	田鹿 毅	リハビリテーション学 (理学療法学)	260,000	補 委	日本学術振興会
主要栄養素バランスが糖尿病膵における β 細胞脱分化に与える分子メカニズムの解析	石田 恵美	内分泌・代謝疾患解析部門代謝疾患医科学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
IL-6-Fyn-オートファジー経路は糖尿病関連サルコペニアと糖尿病性腎臓病をつなぐか？	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
癌間質蛋白阻害による癌関連線維芽細胞の制御：難治性膵臓癌の克服を目指して	河合 俊輔	肝胆膵外科	2,210,000	補 委	日本学術振興会
GGGGCCリピート伸長培養細胞モデルを用いたALSの治療法開発研究	塚越 設貴	脳神経内科学分野	1,950,000	補 委	日本学術振興会
ヒト気道上皮細胞でのムチン産生誘導における自然免疫機構の関与の解明	西田 豊	小児科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
小児急性骨髄性白血病の統合解析ーゲノムワイドDNAメチル化解析を中心としてー	大和 玄季	小児科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
ヒト大腸癌オルガノイドを用いた腫瘍増殖の解明と新規免疫治療法の開発	白石 卓也	消化管外科	2,210,000	補 委	日本学術振興会
炎症性大腸癌におけるHLA class1に着目した新規治療法の開発	大曾根 勝也	消化管外科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
肝癌における免疫療法耐性克服のためのHOIP阻害剤を併用した新規免疫療法の開発	星野 弘毅	肝胆膵外科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシーにおける肥満細胞の役割	原口 崇	麻酔・集中治療科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
ミニブタ内側半月板横断裂に対する半月板縫合術に併用した体外衝撃波療法の治療効果	橋本 章吾	整形外科科学分野	910,000	補 委	日本学術振興会
前立腺神経内分泌癌に対するタンパク翻訳阻害剤を用いた新規治療戦略	大津 晃	泌尿器科学分野	1,820,000	補 委	日本学術振興会
子宮頸癌に対する重粒子線治療における線質と殺細胞効果を結ぶ論理体系の確立	尾池 妙	周産母子センター	1,560,000	補 委	日本学術振興会
IL6-Fyn-STAT3を介したオートファジー活性調節は糖尿病性網膜症の成因となるのか？	齊藤 千真	眼科学分野	2,210,000	補 委	日本学術振興会
抗癌剤治療による類洞閉塞症候群に対する新たな治療戦略の開発	久保 憲生	肝胆膵外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌に対する β 3-アドレナリン受容体の発現と制御による治療感受性への影響の解明	小峯 知佳	消化管外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
酸素ナノバブル水による炎症性大腸発癌の抑制メカニズムの解明	片山 千佳	消化管外科	1,820,000	補 委	日本学術振興会

神経膠腫診断のための血中microRNAの網羅的解析とその変動・病態メカニズムの解明	大澤 祥	脳神経外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
従来型動員法より見た次世代型末梢血幹細胞動員法の総合的理解	横濱 章彦	輸血部	650,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌に対する重粒子線治療の時間的・空間的最適化に関する研究	岡本 雅彦	腫瘍放射線学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
イモ貝毒の ω -コノキシンを用いた新しい鎮痛徐放製剤の開発	松岡 宏晃	集中治療部	650,000	補委	日本学術振興会
フザリウムによる真菌性角膜炎の重症化におけるマイコキシンの関与の解明	戸所 大輔	眼科学分野	780,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性口腔癌におけるRadiomicsを応用したプレジジョンメディシンの構築	金 舞	歯科口腔・顎顔面外科	650,000	補委	日本学術振興会
嚥下内視鏡検査におけるホワイトアウトの輝度を用いた嚥下圧の客観的評価法の開発	五味 暁憲	歯科口腔・顎顔面外科	520,000	補委	日本学術振興会
途上国におけるセミデジタル補聴集音器の実証	茂木 雅臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	325,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア高齢者の薬物代謝能力及び相互作用評価システムの開発と副作用リスク回避	戸島 洋貴	消化器・肝臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
放射線治療の個別最適化を目指したメタボロミクス・リバースTR	尾池 貴洋	放射線治療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
不顕性誤嚥の検出における唾液腺シンチグラフィーの応用	平澤 裕美	放射線部	1,300,000	補委	日本学術振興会
多機能性粘膜下局注材を用いる早期消化管癌の低侵襲治療法の創出と実証	浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
遺伝性心筋症の進行におけるATP可視化モデルをもちいた心筋エネルギー代謝の解析	小板橋 紀通	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
新規炎症収束性脂質メディエーターRsolvinE群はARDSの治療薬となり得るか	齋藤 悠	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ATOX8遺伝子の糸球体上皮細胞における機能と発現制御機序の解明	浜谷 博子	腎臓・リウマチ内科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
ポドサイト細胞生物学による特発性ネフローゼ症候群鑑別診断法の臨床応用	小林 靖子	小児科学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
転写因子SOX2による皮膚虚血再灌流障害(急性期褥瘡)の制御機構の解明	内山 明彦	皮膚科	780,000	補委	日本学術振興会
掌蹠型角化機構の解明と再生医療への応用	安田 正人	皮膚科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会

がん細胞特異的アミノ酸トランスポーターを標的とした新規複合的がん免疫療法の開発	酒井 真	消化管外科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
好塩基球のMRGPRX2をターゲットとしたアナフィラキシーのメカニズムの解明	南雲 一洋	麻酔・集中治療科	910,000	補委	日本学術振興会
肩腱板断裂における中枢神経の運動制御機能の解明	設楽 仁	整形外科科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
副腎癌に対する抗サバイビン光抗体療法と重粒子線免疫療法の基礎的研究	小池 秀和	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経内分泌細胞分化前立腺癌における脂質代謝を介した増殖メカニズムの基礎的検討	関根 芳岳	泌尿器科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
ヒト胎盤幹細胞を用いたエピトランスクリプトーム解析による妊娠合併症の病態解明	谷口 公介	分子細胞生物学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
COVID-19パンデミックが循環器疾患診療に与える影響ービッグデータでの検討ー	大山 善昭	先端医療開発センター	390,000	補委	日本学術振興会
Astroblastomaにおける分子遺伝学的多様性と臨床病理学的特徴の関連を解明する	信澤 純人	病態病理学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
糖尿病と神経変性疾患の相互増悪に対する治療法開発	土岐 明子	生体情報検査科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
皮膚、肺、腸管に対する炭素イオン線FLASH効果のLET依存性に関する検討	大野 達也	腫瘍放射線学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
AIによる重粒子線治療後QOL予測を利用した意思決定支援システムの構築	河村 英将	医学部門	1,040,000	補委	日本学術振興会
KRAS変異陽性肺癌の進展に関わる分子機構の解明と新規治療法の開発	砂長 則明	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
喘息の発症・重症化に悪影響を与える環境因子に対する研究ー病態解明と予防ー	久田 剛志	リハビリテーション学(理学療法学)	1,170,000	補委	日本学術振興会
シングルセルゲノミクスによる視床下部・下垂体ー甲状腺系の分泌機構と病態の解明	堀口 和彦	内分泌糖尿病内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
多発性内分泌腫瘍症1型の腫瘍発症におけるMEN1遺伝子病的バリエーションの役割	小澤 厚志	看護学	1,820,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化症の新たな指標:リポタンパクリパーゼの臨床的意義の確立	木村 孝穂	臨床検査医学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
肝癌におけるサルコペニアの影響と免疫治療耐性機序による新規治療ターゲットの創出	新木 健一郎	肝胆膵外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
T細胞を中心とした制御性免疫システムが及ぼす大動脈弁石灰化進行・制御の解明	立石 渉	循環器外科	1,560,000	補委	日本学術振興会

小細胞肺癌に対するDNA損傷応答とFOXM1を標的とした新規治療法の開発	大瀧 容一	呼吸器外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肥満細胞を用いた周術期アナフィラキシーの診断と発症メカニズムの解明	堀内 辰男	麻酔・集中治療科	1,560,000	補委	日本学術振興会
がん疼痛による脳の形態的・機能的変化の解析:慢性化する痛みと治療効果の検証	山田 真紀子	腫瘍センター	1,040,000	補委	日本学術振興会
手術侵襲による術後認知機能障害の分子生物学的解明とその治療法の探求	門井 雄司	手術部	1,820,000	補委	日本学術振興会
新たな心肺蘇生法確立を目指した心肺停止・蘇生による細胞死の解明に関する基礎的研究	大嶋 清宏	救急医学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
アポトーシス誘導とFGFR阻害薬耐性メカニズムの解明による新規尿路上皮癌治療への展開	新井 誠二	泌尿器科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌における癌関連線維芽細胞の機能的多様性の解明と治療戦略の創出	富所 雄一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来の間葉系幹細胞を付加した脂肪移植を用いた乳房再建に関する研究	牧口 貴哉	形成外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
加熱式たばこによる受動喫煙の実態と妊娠予後	篠崎 博光	看護学	1,820,000	補委	日本学術振興会
骨格筋由来のリパーゼ作用を介した脂質代謝メカニズムの性差の解明	常川 勝彦	検査部	1,820,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症微小環境の時空的プロファイリングと部位特異的内膜症形質の関連解析	岩瀬 明	産科婦人科学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
抑制性神経伝達障害に着目した統合失調症の新規治療法開発	藤原 和之	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部腺癌に対する放射線治療における免疫関連分子と予後の評価	宮坂 勇平	医学部門	780,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息におけるpH感知性TDAG8を介した新規メカニズムの解明	鶴巻 寛朗	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎、SLEにおける初期病態形成機序の解明	栗山 裕子	皮膚科	650,000	補委	日本学術振興会
急性骨髄性白血病細胞の増殖におけるラミニン-インテグリン-カドヘリン系の関与	小林 宣彦	血液内科	520,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞エクソソームを用いた重症熱傷に対する新たな治療法の開発	澤田 悠輔	救急医学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳虚血再灌流障害におけるフェロトーシスの抑制による新規脳保護療法の確立	神徳 亮介	脳神経外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会

光免疫療法による関節リウマチFLSを標的とした新規治療法の開発	須藤 貴仁	整形外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
初期胚発生におけるエンドサイトーシス関連タンパク質の網羅的解析	森田 晶人	産科婦人科	650,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌患者における末梢血循環癌細胞のシングルセル解析	多田 紘恵	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	650,000	補委	日本学術振興会
視神経屈曲のある鞍上部腫瘍における眼循環の解明	篠原 洋一郎	眼科	780,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部腺癌臨床検体における重粒子線治療後の免疫チェックポイント分子の発現と機構	熊澤 琢也	医学部門	3,510,000	補委	日本学術振興会
セルフフリーDNAを用いたKRAS codon12変異解析による革新的膵癌治療戦略	五十嵐 隆通	肝胆膵外科学分野	2,080,000	補委	日本学術振興会
DNA傷害応答に着目した髄芽腫の層別化と新規治療法開発	中田 聡	脳神経外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷モデルマウスを用いたヒドロコルチゾン21-ヘミコハク酸の治療効果の検証	三枝 徳栄	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔癌と内臓脂肪型肥満の間に生じる組織学的分化度依存的なネットワークの解明	喜名 美香	歯科口腔・顎顔面外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
運転免許取得が困難な方を対象とした特別な自動車教習コース受講者の追跡調査	伊部 洋子	リハビリテーション部	260,000	補委	日本学術振興会
高体温がエネルギー代謝に与える影響:熱中症に対する安全な栄養療法を探索	大澤 好充	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸トランスポーターに注目した難治性大腸癌に対する革新的治療戦略の確立	柴崎 雄太	地域医療研究・教育センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
死後冠動脈造影CT検査による心筋虚血部位の自動画像解析-冠動脈疾患診断法の新規開発-	福田 治紀	法医学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
睡眠障害が遷延性術後痛に与える影響の神経科学的解析	伊東 久勝	麻酔・集中治療科	780,000	補委	日本学術振興会
低酸素応答の活性化が前立腺癌の放射線治療効果に与える影響の検討	宮澤 慶行	泌尿器科学分野	815,828	補委	日本学術振興会
ヒト胎芽期・胎児期・新生児期の環境因子によるエピゲノム変異とその経時的变化の同定	秦 健一郎	分子細胞生物学分野	2,500,000	補委	日本学術振興会
前頭前野が内因性鎮痛に果たす役割-下行性抑制の最上位中枢なのか?-	須藤 貴史	麻酔神経科学分野	1,000,000	補委	日本学術振興会

再発危険因子を有するハイリスクStageⅡ結腸がん 治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	白石 卓也	消化管外科	22,000	補 委	(公財)人がん集学的治療研究財団
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	16,000	補 委	(国大)東海国立大学機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	300,000	補 委	(国研)国立国際医療研究センター
J-CAT及びJ-CAT PRIMEを活用した純粋小脳型脊髄小脳変性症のヒストリカルデータの収集	池田 佳生	脳神経内科	114,400	補 委	(国研)国立精神・神経医療研究センター
ホルモン受容体陽性HER2陰性進行転移乳癌におけるCDK4/6阻害薬による治療実態に関する多機関共同観察研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	187,000	補 委	(一社)JBCRG
周術期アナフィラキシーのin vitro検査による診断法の確立と全国疫学調査	堀内 辰男	麻酔・集中治療科	1,761,552	補 委	(国大)富山大学
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患(SSc-ILD)に対するPAI-1阻害薬TM5614の第Ⅱ相医師主導治験	茂木 精一郎	皮膚科	3,900,000	補 委	(国大)東北大学
全身性強皮症の血管障害への新治療薬による医師主導治験研究	茂木 精一郎	皮膚科	5,200,000	補 委	(国大)大分大学
家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入検証	竹内 洋司	光学医療診療部	1,000,000	補 委	京都府(公大)
神経発達障害の病因解明を目指したクロマチンの3次元構造解析	滝沢 琢己	小児科	3,900,000	補 委	(国大)東京大学
髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	信澤 純人	病理部	1,300,000	補 委	(地独法)大阪市民病院機構
心不全の包括的介入が心不全患者の認知機能に与える影響を検討する研究開発	小保方 優	循環器内科	8,814,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
スポーツ分野における医・科学データを活用したトレーニング推進業務	大山 善昭	先端医療開発センター	4,999,995	補 委	群馬県
小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究	羽鳥 麗子	小児科	325,000	補 委	(公大)和歌山県立医科大学
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	半田 寛	血液内科	260,000	補 委	(公財)がん研究会

TNF α 阻害薬使用患者への弱毒生ワクチン接種多施設共同前向き試験	石毛 崇	小児科	50,000	補 委	(国研)国立成育医療研究センター
未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験	横濱 章彦	血液内科	325,000	補 委	(国大)東北大学
シーズB19-54 真菌性角膜炎に対するルリコナゾール点眼の製剤化	戸所 大輔	眼科	2,825,000	補 委	(国大)筑波大学
生物学的製剤を使用した若年成人・小児ぜん息患者の長期予後改善と生産性向上に関する調査研究	滝沢 琢己	小児科	1,300,000	補 委	(独法)国立病院機構三重病院
免疫調節治療を要する患者の安全な妊娠・出産を実現するためのエビデンス構築	石毛 崇	小児科	650,000	補 委	(国大)東北大学
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する早期死亡と白血病発症予防を目的とした標準化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	大和 玄季	小児科	130,000	補 委	(国大)東海国立大学機構
小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発	信澤 純人	病理部	260,000	補 委	(国大)東海国立大学機構
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	信澤 純人	病理部	260,000	補 委	(国大)京都大学
難治性の希少腎疾患に対する治療最適化に向けた研究開発	廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	260,000	補 委	(国大)東海国立大学機構

計 129件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Muranaka M, Sakai M, Ogano T, et al	消化管外科	Evaluation of stopping power ratio of artificial breast implants for carbon-ion radiotherapy.	Radiol Phys Technol. 2025 Mar ; 18(1):121-126.	Original Article
2	Yazawa T, Nagashima T, Ohtaki Y, et al	呼吸器外科	Left inferior lingual and ventrobasal (S5 + S8) video- assisted thoracoscopic surgery segmentectomy using intersegmental tunneling for primary lung cancer.	JTCVS Tech. 2024 Dec 10 ; 29:173-175. (オンライン)	Case Report
3	Inomata K, Takasawa E, Mieda T, et al	整形外科	Posterior Cartilage Endplate Disruption on T1-weighted Magnetic Resonance Imaging as a Predictor for Postoperative Recurrence of Lumbar Disk Herniation.	Clin Spine Surg. 2025 Mar 1 ; 38(2):E96-E99.	Original Article
4	Tomomatsu Y, Takasawa E, Iizuka Y, et al	整形外科	Impact of hypertension in diabetes on surgical outcomes after cervical laminoplasty - a retrospective, multi-institutional study of 1002 patients.	Eur Spine J. 2025 Apr ; 34(4):1301-1308.	Original Article
5	Sawada T, Igarashi A, Arai S, et al	泌尿器科	Afebrile tuberculous prostatic abscess with rectal fistula after intravesical Bacillus Calmette- GuAcrin immunotherapy.	IJU Case Rep. 2024 Nov 22 ; 8(1):69-72. (オンライン)	Original Article
6	Morita A, Higeta D, Kitahara Y, et al	産科婦人科	Management of Mild Postpartum Anemia: Is Iron Administration Effective?	Cureus. 2024 Jul 24 ; 16(7):e65276. (オンライン)	Original Article
7	Morita A, Higeta D, Tanaka A, et al	産科婦人科	Efficacy of Immediate Continuous Oxytocin Administration After Twin Cesarean Delivery.	Cureus. 2024 Nov 18 ; 16(11):e73952. (オンライン)	Original Article
8	Yoshimatsu M, Tokue H, Jingu A, et al	放射線診断核医学科	Transcatheter Arterial Embolization for Blunt Trauma in a Horseshoe Kidney With Contralateral Renal Artery Anomaly: A Case Report and Literature Review.	Cureus. 2025 Feb 6 ; 17(2):e78614. (オンライン)	Case Report
9	Tokue H, Tokue A, Tsushima Y	放射線診断核医学科	A case of MRI-induced headache caused by an intracranial foreign body.	BJR Case Rep. 2024 Aug 29 ; 10(5):uaae030. (オンライン)	Case Report
10	Kimura T, Miyashita K, Fukamachi I, et al	検査部	Quantification of lipoprotein lipase in mouse plasma with a sandwich enzyme-linked immunosorbent assay.	J Lipid Res. 2024 Apr ; 65(4):100532.	Original Article
11	Takeuchi T, Hayashi N, Ujita K, et al	放射線部	Optimization of 3D imaging time reduction by assessing spatial resolution in the slice selective direction using the ladder method.	Magn Reson Imaging. 2024 Dec ; 114:110246.	Original Article

12	Kamiyama A, Takazawa T, Matsui Y, et al	集中治療部	Investigation of the optimal method of oxygen administration with simultaneous use of a surgical mask in postoperative patients: a randomized cross-over study.	JA Clin Rep. 2024 Sep 28 ; 10(1):60. (オンライン)	Original Article
13	Nakao Y, Ibe Y, Tazawa M, et al	リハビリテーション部	Refractory Severe Anti-SRP Myopathy that Improved with Long-term Rehabilitation Therapy: A Case Report.	Prog Rehabil Med. 2025 Jan 22 ; 10:20250003. (オンライン)	Case Report
14	Kubo N, Ozawa T, Shioyama Y, et al	重粒子線医学センター	Impact of COVID-19 Pandemic on Carbon-Ion Radiation TherapyA?in Japan: A Japanese National Registry Study.	Int J Part Ther. 2024 Oct 19 ; 14:100634. (オンライン)	Original Article
15	Kubo N	重粒子線医学センター	Response to Letter to the Editor.	J Thorac Oncol. 2024 Aug ; 19(8):e22.	Letter
16	Hasebe Y, Tashiro M, Sakurai H	重粒子線医学センター	Evaluation of dose distributions and respiratory motion tolerance for layer-stacking conformal carbon-ion radiotherapy.	Radiol Phys Technol. 2025 Mar ; 18(1):3-16.	Original Article
17	Ma L, Li Y, Sakamoto Y, et al	重粒子線医学センター	Optimal radiation dose to induce an abscopal effect by combining carbon-ion radiotherapy and anti-CTLA4 antibody.	Neoplasia. 2025 Feb ; 60:101099.	Original Article
18	Kubo N	重粒子線医学センター	Response to Letter to the Editor.	J Thorac Oncol. 2025 Jan ; 20(1):e13.	Letter
19	Kawashima M, Varnava M, Ozawa S, et al	重粒子線医学センター	Evaluation of monthly variations in electrometer calibration coefficients using a charge generator for radiation therapy.	Radiol Phys Technol. 2024 Sep ; 17(3):770-775.	Original Article
20	Musha A, Kubo N, Kawamura H, et al	重粒子線医学センター	Impact of perineural tumor spread in head and neck adenoid cystic carcinoma for carbon-ion radiotherapy.	Clin Transl Radiat Oncol. 2025 Jan 30 ; 52:100928. (オンライン)	Original Article
21	Oike T, Kambe R, Darwis NDM, et al	重粒子線医学センター	Establishment of cancer cell radiosensitivity database linked to multi-layer omics data.	Cancer Sci. 2025 Mar ; 116(3):690-697.	Original Article
22	Seto E, Kina S, Kawabata-Iwakawa R, et al	地域医療研究・教育センター	Trypanosoma cruzi assembles host cytoplasmic processing bodies to evade the innate immune response.	Biochim Biophys Acta Gen Subj. 2024 Nov ; 1868(11):130686.	Original Article
23	Sadakata M, Konno A, Takase A, et al	地域医療研究・教育センター	Critical factors for flow cytometry analysis of the brain.	FEBS J. 2025 Mar 14.	Original Article
24	Sadakata M, Fujii K, Kaneko R, et al	地域医療研究・教育センター	Maternal immunoglobulin G affects brain development of mouse offspring.	J Neuroinflammation. 2024 May 2 ; 21(1):114. (オンライン)	Original Article
25	Sato MT, Yashima H, Araki T, et al	薬剤部	Effect of dasatinib on blood concentrations of sunitinib and adverse events in a patient with metastatic renal cell carcinoma treated with sunitinib: A case report.	Exp Ther Med. 2025 Feb 7 ; 29(4):69. (オンライン)	Case Report

26	Niwa T, Matsumoto T, Ohkusu M, et al	先端医療開発センター	Invasive pneumococcal disease caused by CO(2)-dependent Streptococcus pneumoniae serotype 24F sequence type 162: A case report.	J Infect Chemother. 2025 Apr ; 31(4):102653.	Case Report
27	Ishii H	循環器内科	How do we diagnose and manage HFpEF?	Int J Cardiol. 2025 May 15 ; 427:133103.	Original Article
28	Kagami K, Obokata M	循環器内科	Prognostic value of cardiac output in different stages of heart failure.	Int J Cardiol. 2025 Mar 15 ; 423:133001.	Original Article
29	Furukawa N, Matsui H, Sunaga H, et al	循環器内科	Sacubitril/valsartan improves diastolic left ventricular stiffness with increased titin phosphorylation via cGMP-PKG activation in diabetic mice.	Sci Rep. 2024 Oct 23 ; 14(1):25081. (オンライン)	Original Article
30	Ishibashi Y, Kasama S, Ishii H	循環器内科	Cardiac sympathetic activity in patients suffering from heart failure with improved ejection fraction.	J Nucl Cardiol. 2025 Mar 22:102196.	Original Article
31	Kuno T, Koitabashi N, Yamashita Y, et al	循環器内科	Management strategies and clinical outcomes of venous thromboembolism in patients with antiphospholipid syndrome in the direct oral anticoagulant era: Insight from the COMMAND VTE Registry-2.	Thromb Res. 2025 May ; 249:109311.	Letter
32	Tamura S, Nakatani Y, Hasegawa H, et al	循環器内科	Significant respiratory-related fluctuations in atrioventricular nodal conduction time in a case of atrioventricular nodal reentrant tachycardia.	HeartRhythm Case Rep. 2024 Apr 26 ; 10(7):473-475. (オンライン)	Case Report
33	Kagami K, Harada T, Yuasa N, et al	循環器内科	Impaired Left Atrial Reserve Function in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction.	Circ Cardiovasc Imaging. 2024 Aug ; 17(8):e016549.	Original Article
34	Nakajima T, Tamura S, Kawabata-Iwakawa R, et al	循環器内科	Novel KCNQ1 Q234K variant, identified in patients with long QT syndrome and epileptiform activity, induces both gain- and loss-of-function of slowly activating delayed rectifier potassium currents.	Front Physiol. 2024 Jul 19 ; 15:1401822. (オンライン)	Original Article
35	Nagasaka T, Patel V, Shechter A, et al	循環器内科	Impact of Balloon-Expandable TAVR Valve Deformation and Calcium Distribution on Outcomes in Bicuspid Aortic Valve.	JACC Cardiovasc Interv. 2024 Sep 9 ; 17(17):2023-2037.	Original Article
36	Sorimachi H, Obokata M, Omote K, et al	循環器内科	Racial Differences of Cardiac Structure and Function in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction.	J Card Fail. 2025 Apr ; 31(4):624-634.	Original Article
37	Kobari T, Kaneko Y, Tamura S, et al	循環器内科	Atypical atrial resetting with ventricular extrastimulus during tachycardia: What is the mechanism?	J Arrhythm. 2024 Aug 7 ; 40(5):1192-1195. (オンライン)	Original Article
38	Nagasaka T, Patel V, Suruga K, et al	循環器内科	Age-Related Outcomes of Valve-in-Valve Transcatheter Aortic Valve Replacement for Structural Valve Deterioration.	J Am Heart Assoc. 2025 Feb 18 ; 14(4):e037168.	Original Article

39	Yuasa N, Ubukata S, Takayanagi R, et al	循環器内科	Collaboration between dyspnea clinic and primary care physicians to identify heart failure with preserved ejection fraction in the community: Results from the Maebashi City HF project.	J Cardiol. 2025 Jan 14:S0914-5087(25)00001-2.	Original Article
40	Kagami K, Kagiya N, Kaneko T, et al	循環器内科	Heart failure with preserved ejection fraction in atrial functional mitral regurgitation – Insight from the REVEAL-AFMR.	Int J Cardiol. 2025 Mar 1 ; 422:132958.	Original Article
41	Tamura S, Nakatani Y, Hasegawa H, et al	循環器内科	Two Distinct Atrial Breakthroughs During Fast-Slow Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2025 Feb ; 36(2):535-539.	Case Report
42	Saito Y, Omae Y, Harada T, et al	循環器内科	Exercise Stress Echocardiography-Based Phenotyping of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction.	J Am Soc Echocardiogr. 2024 Aug ; 37(8):759-768.	Original Article
43	Naito A, Kagami K, Yuasa N, et al	循環器内科	Prognostic utility of cardiopulmonary exercise testing with simultaneous exercise echocardiography in heart failure with preserved ejection fraction.	Eur J Heart Fail. 2024 Dec ; 26(12):2582-2590.	Original Article
44	Nagasaka T, Shechter A, Patel V, et al	循環器内科	Two-Year Clinical Outcomes of Staged Transcatheter Mitral Edge-to-Edge Repair After Transcatheter Aortic Valve Replacement.	Am J Cardiol. 2024 Aug 1 ; 224:46-54.	Original Article
45	Yuasa N, Harada T, Kagami K, et al	循環器内科	The roles of exercise stress echocardiography for the evaluation of heart failure with preserved ejection fraction in the heart failure pandemic era.	J Med Ultrason (2001). 2024 Jul ; 51(3):437-445.	Original Article
46	Hasegawa H, Tamura S, Nakajima T, et al	循環器内科	Diverse Phenotypic Manifestations in a Family with a Novel RYR2 E4107A Variant.	Int Heart J. 2024 ; 65(3):580-585.	Case Report
47	Yamaguchi K, Poland P, Bijoy George T, et al	呼吸器・アレルギー内科	Correlation between B-cell epitope profile and clinical features of anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis.	Rheumatology (Oxford). 2024 Jul 1 ; 63(7):2016-2023.	Original Article
48	Kobayashi N, Sunaga N, Yatomi M, et al	呼吸器・アレルギー内科	A Case of Primary Lung Adenocarcinoma With Recurrent Brain Metastasis due to Transformation to Small Cell Carcinoma During Adjuvant Atezolizumab Therapy.	Thorac Cancer. 2025 Jan ; 16(2):e15512.	Case Report
49	Tsurumaki H, Abe Y, Oishi K, et al	呼吸器・アレルギー内科	Assessing the utility of fractional exhaled nitric oxide-guided management in adult patients with asthma: A systematic review and meta-analysis.	Respir Investig. 2025 Jan ; 63(1):118-126.	Original Article
50	Koga Y, Motegi M, Ono A, et al	呼吸器・アレルギー内科	Serum galectin-3 as a biomarker of progression of idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib.	Respir Investig. 2025 May ; 63(3):394-398.	Original Article

51	Yamaguchi K, Tang Q, Poland P, et al	呼吸器・アレルギー内科	Clinical features associated with the presence of anti-Ro52 and anti-Ro60 antibodies in Jo-1 antibody-positive anti-synthetase syndrome.	Front Immunol. 2024 Jun 4 ; 15:1399451. (オンライン)	Original Article
52	Yatomi M, Hashimoto C, Kouno S, et al	呼吸器・アレルギー内科	Rare Case of Fusobacterium necrophorum Bacteremia and Pleural Empyema Originating from a Burn Ulcer in a 16-Year-Old Female Patient.	Am J Case Rep. 2024 Dec 10 ; 25:e945283. (オンライン)	Case Report
53	Yatomi M, Akasaka K, Sato S, et al	呼吸器・アレルギー内科	A case of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis during the course of treatment of rapidly progressive interstitial pneumonia associated with anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis.	BMC Pulm Med. 2024 Apr 8 ; 24(1):170. (オンライン)	Case Report
54	Sato K, Fukuchi T, Kondo S, et al	消化器・肝臓内科	Feasibility of a novel self-assembling submucosal injection peptide solution for endoscopic mucosal resection of colorectal lesions: A multicenter study.	DEN Open. 2025 Feb 13 ; 5(1):e70069. (オンライン)	Original Article
55	Kasuga K, Sato K, Nakata K, et al	消化器・肝臓内科	Novel submucosal injection material comprising fully synthetic and self-assembling peptide solution in endoscopic submucosal dissection: A pilot study.	Endosc Int Open. 2025 Jan 13 ; 13:a24872823. (オンライン)	Original Article
56	Tomaru S, Takeuchi Y, Koike M, et al	消化器・肝臓内科	Marked lymphatic involvement and lymph node metastases without direct submucosal invasion in a sigmoid colon cancer arising from a flat variant of traditional serrated adenoma.	Gastrointest Endosc. 2025 Mar ; 101(3):683–685.	Original Article
57	Sato K, Shimizu T, Watanabe A, et al	消化器・肝臓内科	Successful radical surgery for lymph node metastasis in a patient with hepatocellular carcinoma following atezolizumab plus bevacizumab combination therapy: a case report and literature review.	Clin J Gastroenterol. 2024 Dec ; 17(6):1067–1074.	Case Report
58	Sato K, Kuramochi M, Tsuchiya A, et al	消化器・肝臓内科	Multicentre study to assess the performance of an artificial intelligence instrument to support qualitative diagnosis of colorectal polyps.	BMJ Open Gastroenterol. 2024 Oct 22 ; 11(1):e001553. (オンライン)	Original Article
59	Hashimoto Y, Tomaru S, Itoi Y, et al	消化器・肝臓内科	Surveillance and Endoscopic Resection of Ulcerative Colitis-Associated Neoplasia: A Japanese Perspective.	Digestion. 2025 ; 106(2):146–152.	Original Article
60	Sato K	消化器・肝臓内科	Treatment of intermediate-to-advanced unresectable hepatocellular carcinoma is shifting toward a multidisciplinary strategy that includes multiple modalities as needed.	World J Gastroenterol. 2025 Mar 14 ; 31(10):103420.	Original Article
61	Xing Y, Hosaka H, Moki F, et al	消化器・肝臓内科	Gender Differences in Patients with Gastric Adenocarcinoma.	J Clin Med. 2024 Apr 25 ; 13(9):2524. (オンライン)	Original Article

62	Yoshino S, Ishida E, Horiguchi K, et al	内分泌糖尿病内科	Mixed-Lineage Leukaemia Gene Regulates Glucose-Sensitive Gene Expression and Insulin Secretion in Pancreatic Beta Cells.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 26 ; 25(9):4704. (オンライン)	Original Article
63	Osaki A, Ozawa A, Morita A, et al	内分泌糖尿病内科	Hidden MODY in Young Lean Women with Mild Glucose Intolerance Detected during Health Check-ups: Potential for Improved Pregnancy Outcomes through Preconception Care.	Intern Med. 2025 May 15 ; 64(10):1603-1607.	Case Report
64	Kajita R, Takahashi H, Yoshino S, et al	内分泌糖尿病内科	Characteristics of Human Leukocyte Antigen Class II Genes in Japanese Patients with Type 1 Diabetes and Autoimmune Thyroid Disease.	Tohoku J Exp Med. 2024 Jul 9 ; 263(2):133-139.	Original Article
65	Yamada E, Kajita R, Takahashi H, et al	内分泌糖尿病内科	Exploring potential correlations between HLA class II and the risk of microvascular complications in Japanese patients with type 1 diabetes.	J Diabetes Complications. 2024 Jun ; 38(6):108763.	Original Article
66	Ogawa Y, Amano K, Sugao Y, et al	血液内科	Real-World Data on Patients With Acquired Haemophilia A in Japan Undergoing Rehabilitation or With Low Activities of Daily Living Scores: The ORIHIME II Study.	Haemophilia. 2025 Jan ; 31(1):99-107.	Original Article
67	Matsumura I, Oda T, Kasamatsu T, et al	血液内科	Role of Rac1 in p53-Related Proliferation and Drug Sensitivity in Multiple Myeloma.	Cancers (Basel). 2025 Jan 29 ; 17(3):461. (オンライン)	Original Article
68	Ogawa Y, Ichinose A, Yanagisawa K, et al	血液内科	Retrospectively diagnosed autoimmune VWF deficiency in a patient with repeated hemorrhagic events after two common colds.	Int J Hematol. 2024 Sep ; 120(3):375-381.	Case Report
69	Kawarabayashi T, Nakamura T, Takatama S, et al	脳神経内科	A case of the iatrogenic transmission of vascular AA β 40 amyloid.	Amyloid. 2025 Mar ; 32(1):81-83.	Original Article
70	Nakamura T, Kawarabayashi T, Shibata M, et al	脳神経内科	High levels of plasma neurofilament light chain correlated with brainstem and peripheral nerve damage.	J Neurol Sci. 2024 Aug 15 ; 463:123137.	Original Article
71	Takahashi R, Furuta M, Nagashima K, et al	脳神経内科	Concurrent Amyotrophic Lateral Sclerosis and Huntington's Disease.	Intern Med. 2025 Jan 15 ; 64(2):297-300.	Case Report
72	Shiina A, Shibata M, Kasahara H, et al	脳神経内科	Neuro-Sweet's disease manifesting as limbic encephalitis and ventriculitis.	Clin Neurol Neurosurg. 2025 May ; 252:108851.	Case Report
73	Kasahara H, Ikeda M, Makioka K, et al	脳神経内科	White matter lesions rather than amyloid- β burden are associated with cognitive decline in Alzheimer's disease.	J Alzheimers Dis. 2025 Mar ; 104(2):319-324.	Original Article
74	Oka H, Nakamura T, Sugawara T, et al	脳神経内科	A case of chronic progressive autoimmune GFAP astrocytopathy with extensive meningoencephalomyelitis and contrast enhancement on MRI.	eNeurologicalSci. 2024 Jun 1 ; 35:100507. (オンライン)	Original Article

75	Konishi Y, Yano D, Banno H, et al	循環器外科	Spinal Cord Infarction after Endovascular Aortic Repair for Infrarenal Abdominal Aortic Aneurysm.	Ann Vasc Dis. 2024 Sep 25 ; 17(3):317–320.	Case Report
76	Sakai M, Sohda M, Uchida S, et al	消化管外科	Reply to: “Predictive Role of Age-Adjusted Charlson Comorbidity Index for Long-Term Survival in Surgical Esophageal Cancer Patients,” by Yuan, Yong et al.	Ann Surg Oncol. 2024 Aug ; 31(8):5101.	Letter
77	Fujii T, Honda C, Tanabe K, et al	乳腺・内分泌外科	Efficacy of Mirogabalin for Taxane-associated Chemotherapy-induced Peripheral Neuropathy in Perioperative Chemotherapy for Early Breast Cancer.	In Vivo. 2024 Jul-Aug ; 38(4):1935–1938.	Original Article
78	Igarashi T, Harimoto N, Fukushima R, et al	肝胆膵外科	Significance of the modified global leadership initiative on malnutrition (GLIM) criteria malcondition for patients with biliary tract cancer.	Surg Today. 2025 Jun ; 55(6):830–838.	Original Article
79	Yamanaka T, Araki K, Suzuki H, et al	肝胆膵外科	Intraoperative severe gastric venous congestion during total pancreatectomy with replaced common hepatic artery: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Aug 8 ; 10(1):184. (オンライン)	Original Article
80	Okami H, Muranushi R, Yokobori T, et al	肝胆膵外科	Human collagen type Ia?based scaffold retains humana?derived fibroblasts in a patienta?derived tumor xenograft mouse model.	Exp Ther Med. 2024 Dec 24 ; 29(2):39. (オンライン)	Original Article
81	Araki K, Watanabe A, Igarashi T, et al	肝胆膵外科	Preoperative setting of functional liver volume enhanced by portal and hepatic vein embolization is key in preventing serious morbidity after hepatectomy with bile duct resection for biliary tract cancer.	HPB (Oxford). 2025 Feb ; 27(2):167–176.	Original Article
82	Fukushima R, Harimoto N, Okuyama T, et al	肝胆膵外科	Impact of the serum creatinine and cystatin C ratio for prediction of sarcopenia and prognosis in biliary tract cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Jul ; 29(7):1002–1011.	Original Article
83	Fukushima R, Harimoto N, Okuyama T, et al	肝胆膵外科	New predictors of microvascular invasion for small hepatocellular carcinomaa?a??a?3A?cm.	Int J Clin Oncol. 2024 Aug ; 29(8):1182–1190.	Original Article
84	Muranushi R, Harimoto N, Seki T, et al	肝胆膵外科	Early drain removal after hepatectomy based on bile leakage prediction using drainage fluid volume and direct bilirubin level.	Hepatol Res. 2024 Nov ; 54(11):1070–1077.	Original Article
85	Tsukagoshi M, Araki K, Shirabe K	肝胆膵外科	Pancreatic cancer and sarcopenia: a narrative review of the current status.	Int J Clin Oncol. 2024 Aug ; 29(8):1055–1066.	Original Article

86	Takayama H, Ichikawa T, Yasui H, et al	放射線診断核医学科	Usefulness of linearly-decelerated injection (downslope) method in arterial-phase CT of liver in evaluation of hypervascular lesions compared with standard injection method.	Eur J Radiol. 2025 Mar ; 184:111979.	Original Article
87	Zorigt O, Yasuda H, Nakajima T, et al	放射線診断核医学科	Concentration-dependent bidirectional modification of evoked synaptic transmission by gadolinium and adverse effects of gadolinium-based contrast agent.	J Neurosci. 2025 Mar 17 ; 45(17):e1622242025.	Original Article
88	Tokue H, Tokue A, Tsushima Y	放射線診断核医学科	Innovative Use of a Coaxial Double-Balloon Catheter System for Treating Gastric Varices.	Cureus. 2024 Oct 28 ; 16(10):e72543. (オンライン)	Original Article
89	Tokue H, Tokue A, Takahashi I, et al	放射線診断核医学科	Primary Central Nervous System Vasculitis (PCNSV): A Case Report Emphasizing Diagnostic Precision and Therapeutic Approaches.	Cureus. 2024 Nov 21 ; 16(11):e74132. (オンライン)	Case Report
90	Hirasawa H, Taketomi-Takahashi A, Katsumata N, et al	放射線診断核医学科	Efficacy of (18)F-Fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for detecting renal cell carcinoma in patients with end-stage renal disease.	Jpn J Radiol. 2024 Oct ; 42(10):1178-1186.	Original Article
91	Kumasaka S, Kartamihardja AAP, Kumasaka Y, et al	放射線診断核医学科	Anthropogenic gadolinium in the Tone River (Japan): an update showing a 7.7-fold increase from 1996 to 2020.	Eur Radiol Exp. 2024 May 24 ; 8(1):64. (オンライン)	Original Article
92	Ohki T, Chao ZC, Takei Y, et al	精神科神経科	Multivariate sharp-wave ripples in schizophrenia during awake state.	Psychiatry Clin Neurosci. 2024 Sep ; 78(9):507-516.	Original Article
93	Sakurai M, Matsui Y, Takazawa T, et al	麻酔・集中治療科	Treatment-resistant hiccups during general anesthesia possibly caused by remimazolam: a case report.	JA Clin Rep. 2024 May 24 ; 10(1):32. (オンライン)	Original Article
94	Horiuchi T, Takeda S, Mieda R, et al	麻酔・集中治療科	Anesthesia management for cesarean section in a woman with chronic renal failure and heart failure: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Aug 5 ; 18(1):355. (オンライン)	Case Report
95	Haraguchi T, Horiuchi T, Takazawa T, et al	麻酔・集中治療科	Comparison of the diagnostic performance of tryptase and histamine for perioperative anaphylaxis: A multicenter prospective study.	Allergol Int. 2024 Oct ; 73(4):573-579.	Original Article
96	Fukushima K, Aoki M, Kitamura N, et al	救急科	The Relationship Between Beta-Blocker Use and Prognosis of Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest.	Cureus. 2024 Nov 18 ; 16(11):e73949. (オンライン)	Original Article
97	Kimura Y, Ishige T, Nishizawa T, et al	小児科	Multiple esophageal ulcers in a pediatric case of granulomatosis with polyangiitis: A case report.	DEN Open. 2025 Feb 26 ; 5(1):e70089. (オンライン)	Original Article
98	Takizawa T	小児科	Recent progress in allergen immunotherapy.	Allergol Int. 2024 Oct ; 73(4):485-486.	Original Article

99	Yamato G, Tsumura Y, Muramatsu H, et al	小児科	Cytokine profiling in 128 patients with transient abnormal myelopoiesis: a report from the JPLSG TAM-10 trial.	Blood Adv. 2024 Jun 25 ; 8(12):3120–3129.	Original Article
100	Kitahara Y, Hiraike O, Ishikawa H, et al	産科婦人科	Diagnosis of abnormal uterine bleeding based on the FIGO classification: A systematic review and expert opinions.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Oct ; 50(10):1785–1794.	Original Article
101	Morita A, Tanaka A, Higeta D, et al	産科婦人科	Association of early onset gestational diabetes mellitus with postpartum glucose intolerance.	Diabetol Int. 2025 Feb 22 ; 16(2):414–420. (オンライン)	Original Article
102	Hiraishi H, Kitahara Y, Kobayashi M, et al	産科婦人科	Factors related to clearance of the small pelvic cavity during gynecologic laparoscopic surgery.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Aug ; 50(8):1392–1397.	Original Article
103	Hasegawa Y, Kitahara Y, Kobayashi M, et al	産科婦人科	Impact of the difference in diagnostic criteria for adolescent polycystic ovary syndrome excluding polycystic ovarian morphology.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Aug ; 50(8):1289–1294.	Original Article
104	Kitahara Y, Hiraike O, Ishikawa H, et al	産科婦人科	A nationwide survey of diagnostic procedures for abnormal uterine bleeding in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Sep ; 50(9):1675–1680.	Original Article
105	Suzuki K, Matsuyama H, Matsubara N, et al	泌尿器科	Current Evidence on Cabazitaxel for Prostate Cancer Therapy: A Narrative Review.	Int J Urol. 2025 May ; 32(5):475–487.	Original Article
106	Sekine Y, Fujizuka Y, Nakazawa S, et al	泌尿器科	Utility of Combining Prostate Health Index and Magnetic Resonance Imaging for the Diagnosis of Prostate Cancer.	Int J Urol. 2025 Mar 17.	Original Article
107	Sekine Y, Oka D, Ohtsu A, et al	泌尿器科	The combination of poly(ADP-ribose) polymerase inhibitor and statin inhibits the proliferation of human castration-resistant and taxane-resistant prostate cancer cells in vitro and in vivo.	BMC Cancer. 2025 Mar 21 ; 25(1):521. (オンライン)	Original Article
108	Arai S	泌尿器科	Editorial Comment on “Changes in the treatment landscape of metastatic hormone-sensitive prostate cancer following approval of upfront androgen receptor signaling inhibitors: A multicenter study”.	Int J Urol. 2025 Mar ; 32(3):321–322.	Original Article
109	Miyazawa Y, Nakayama H, Kawamura H, et al	泌尿器科	Analysis of urinary function and prostate volume changes in localized prostate cancer patients treated with carbon-ion radiotherapy; a prospective study.	Radiat Oncol. 2024 Nov 19 ; 19(1):165. (オンライン)	Original Article
110	Nakamura S, Shimauchi-Ohtaki H, Honda F, et al	脳神経外科	A Primary Spinal Intramedullary Mixed Germ Cell Tumor: A Case Report and Literature Review.	NMC Case Rep J. 2025 Feb 7 ; 12:53–58. (オンライン)	Case Report

111	Asano H, Arai M, Narita A, et al	脳神経外科	Developmental regression of novel space preference in an autism spectrum disorder model is unlinked to GABAergic and social circuitry.	Front Cell Neurosci. 2025 Jan 15 ; 18:1513347. (オンライン)	Original Article
112	Tosaka M, Yamaguchi R, Horiguchi K, et al	脳神経外科	Outcome of endoscopic transsphenoidal surgery for acromegaly: Comparison of using and not using the floor standing pneumatic powered endoscope-holder system.	Heliyon. 2024 Aug 2 ; 10(15):e35647. (オンライン)	Original Article
113	Oya S, Yoshida S, Saito A, et al	脳神経外科	Comparative Effects of Carotid Endarterectomy and Stenting on Visual Recovery in Patients With Carotid Artery Stenosis.	Neurosurgery. 2025 Feb 17.	Original Article
114	Asano H, Horiguchi K, Kakinuma C, et al	脳神経外科	Neurolymphomatosis secondary to primary central nervous system lymphoma: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Jul 1 ; 8(1):CASE24107. (オンライン)	Original Article
115	Otaki Y, Nagano T, Saito F, et al	脳神経外科	Ruptured Vertebral Artery Dissection Treated with Endovascular Intervention.	World Neurosurg. 2024 Sep ; 189:e162-e167.	Original Article
116	Yamamoto Y, Shimauchi-Ohtaki H, Honda F, et al	脳神経外科	Thoracic Intra and Extramedullary Capillary Hemangioma with Subacute Clinical Course: A Case Report and Literature Review.	NMC Case Rep J. 2024 Apr 5 ; 11:85-91. (オンライン)	Case Report
117	Shintoku R, Shimizu T, Aihara M, et al	脳神経外科	Factors associated with decreasing diffusion-weighted imaging-positive area volume after mechanical thrombectomy in patients with large early ischemic changes.	Interv Neuroradiol. 2024 Apr 5:15910199241245279.	Original Article
118	Matsumoto H, Hoshino J, Numaga S, et al	眼科	Retinal vasculitis after intravitreal aflibercept 8A?mg for neovascular age-related macular degeneration.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Sep ; 68(5):531-537.	Original Article
119	Hoshino J, Matsumoto H, Nakamura K, et al	眼科	Efficacy of switching to brolicizumab for neovascular age-related macular degeneration refractory to faricimab.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Mar ; 69(2):221-229.	Original Article
120	Nagashima T, Akiyama H, Nakamura K, et al	眼科	Posterior Precortical Vitreous Pocket in Stickler Syndrome: A Report of Two Cases.	Cureus. 2024 May 4 ; 16(5):e59633. (オンライン)	Case Report
121	Nitta K, Miyakubo T, Tokui S, et al	眼科	Validation of a new technique using 4-0 nylon thread as a guide for tube insertion of the Ahmed glaucoma valve into the ciliary sulcus.	Indian J Ophthalmol. 2024 Nov 1 ; 72(11):1659-1662.	Original Article
122	Nitta K, Akiyama H	眼科	Different Vortex Vein Anomalies Observed in a Single Case: Macular Vortex Vein in One Eye and Varix of Vortex Vein Ampulla in the Other Eye.	Cureus. 2024 Jul 2 ; 16(7):e63668. (オンライン)	Case Report
123	Takahashi H, Matsuyama T, Kawabata-Iwakawa R, et al	耳鼻咽喉科	Comprehensive profiling of the heterogeneity of molecular endotypic traits in chronic rhinosinusitis.	Hum Immunol. 2025 May ; 86(3):111267.	Original Article

124	Motegi M, Sakurai Y, Mio Y, et al	耳鼻咽喉科	Cochlear Implantation for Isoleucyl-tRNA Synthetase Mutation-Associated Mitochondrial Disease: A Case Report.	Cureus. 2024 Aug 25 ; 16(8):e67760. (オンライン)	Case Report
125	Matsuyama T, Sakurai M, Chikamatsu K	耳鼻咽喉科	Dupilumab-related late adverse events in patients with chronic rhinosinusitis with nasal polyps.	Acta Otolaryngol. 2024 Oct ; 144(10):570-573.	Original Article
126	Tada H, Kawabata-Iwakawa R, Takahashi H, et al	耳鼻咽喉科	Novel Index Based on Inflammatory Markers Correlates with Treatment Efficacy of Nivolumab for Recurrent/Metastatic Head and Neck Cancer.	Oncology. 2024 Nov 20:1-11.	Original Article
127	Chikamatsu K, Ida S, Masuda K, et al	耳鼻咽喉科	Enhancement of Tumor Antigen-specific T-cell Responses by Immune Checkpoint Blockade in Human Papillomavirus-related Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer Res. 2024 Jul ; 44(7):2921-2931.	Original Article
128	Ishikawa M, Uchiyama A, Kosaka K, et al	皮膚科	Exposure to volatile ferroptosis inhibitor, TEMPO, reduced cutaneous ischemia-reperfusion injury progression to pressure ulcer formation in a mouse model.	J Dermatol Sci. 2024 Sep ; 115(3):130-140.	Original Article
129	Kimura M, Uchiyama A, Endo Y, et al	皮膚科	Possible effectiveness of switching biologics from adalimumab to certolizumab pegol in pyoderma gangrenosum.	J Dermatol. 2025 Feb ; 52(2):e153-e154.	Letter
130	Yasuda M, Sasahira S, Okada E, et al	皮膚科	Long-term follow-up of sweat-gland carcinoma with neuroendocrine differentiation (SCAND) with sentinel lymph node metastases.	J Dermatol. 2025 May ; 52(5):e359-e360.	Letter
131	Asatori A, Saito S, Inoue Y, et al	皮膚科	A case of exogenous ochronosis in a Japanese patient: Capillaroscopic findings and literature review.	J Dermatol. 2025 Apr ; 52(4):e294-e296.	Letter
132	Sekiguchi A, Ishikawa M, Uchiyama A, et al	皮膚科	Rapid thawing enhances tissue destruction in a mouse model of cutaneous cryoablation: Insights into oxidative stress and neutrophil activation.	J Dermatol Sci. 2025 Apr ; 118(1):9-17.	Original Article
133	Sekiguchi A, Shimokawa C, Kato T, et al	皮膚科	Inhibition of skin fibrosis via regulation of Th17/Treg imbalance in systemic sclerosis.	Sci Rep. 2025 Jan 9 ; 15(1):1423. (オンライン)	Original Article
134	Sekiguchi A, Ishikawa M, Uchiyama A, et al	皮膚科	Topical sirolimus suppresses skin fibrosis in a bleomycin-induced mouse model of systemic sclerosis.	J Dermatol Sci. 2025 Apr ; 118(1):45-48.	Letter
135	Shitara H, Koda R, Tajika T, et al	整形外科	Impact of Pitching on Infrapinatus Muscle Elasticity in High School Baseball Pitchers: A Continuous Shear Wave Elastography Study.	Diagnostics (Basel). 2025 Mar 17 ; 15(6):749. (オンライン)	Original Article

136	Nonaka S, Hatayama K, Tokunaga S, et al	整形外科	Diagnostic Accuracy of Magnetic Resonance Imaging in the 120A° Flexed-Knee Position for Detecting and Classifying Meniscal Ramp Lesion.	Am J Sports Med. 2024 Dec ; 52(14):3602–3610.	Original Article
137	Hatori Y, Tajika T, Yanai K, et al	整形外科	Relationship Between Ulnar Nerve Instability and the Degree of Ulnar Collateral Ligament Laxity in High School Baseball Pitchers.	Cureus. 2025 Mar 4 ; 17(3):e80024. (オンライン)	Original Article
138	Hosokawa T, Tajika T, Suto M, et al	整形外科	Impact of Possible Sarcopenia and Nutritional Status on Postoperative Quick Disabilities of the Arm, Shoulder, and Hand Score in Geriatric Women With Distal Radius Fracture.	J Hand Surg Am. 2024 Nov ; 49(11):1112–1118.	Original Article
139	Hashimoto S, Ohsawa T, Omae H, et al	整形外科	Extracorporeal shockwave therapy for degenerative meniscal tears results in a decreased T2 relaxation time and pain relief: An exploratory randomized clinical trial.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024 Dec ; 32(12):3141–3150.	Original Article
140	Shitara H, Ichinose T, Sasaki T, et al	整形外科	Preoperative Nutrition Impacts Retear Rate After Arthroscopic Rotator Cuff Repair.	J Bone Joint Surg Am. 2024 Nov 20 ; 106(22):2111–2118.	Original Article
141	Yanagawa T, Okamoto M, Ohno T, et al	整形外科	How to Prevent Local Recurrence of Sacral Chordoma Treated with Carbon-Ion Radiotherapy: An Analysis of the Risk Factors of Local Failure and an Adequate Disease Margin.	Oncology. 2025 ; 103(1):30– 36.	Original Article
142	Yanai K, Tajika T, Ito T, et al	整形外科	A case of pediatric medial epicondyle fracture with medial and lateral collateral ligament injury.	JSES Int. 2024 Jun 10 ; 8(5):1145–1149. (オンライン)	Case Report
143	Kakiage H, Handa M, Takahashi T, et al	整形外科	Biomechanical comparison of ultra-high molecular weight polyethylene sutures of different thicknesses of the tensile strength for pullout repair of medial meniscal posterior root tear.	J Exp Orthop. 2024 Oct 15 ; 11(4):e70055. (オンライン)	Original Article
144	Shitara H, Hiroki T, Koda R, et al	整形外科	Relationship Between Muscle Tone and Elasticity: Simultaneous Quantitative Assessment Using Train-of- Four Monitoring and Continuous Shear Wave Elastography During Anesthesia Induction—A Prospective Observational Study.	Diagnostics (Basel). 2025 Jan 26 ; 15(3):293. (オンライン)	Original Article
145	Shitara H, Hamano N, Tajika T, et al	整形外科	The Preseason Functional Movement Screen as a Predictive Tool for Shoulder and Elbow Injuries in High School Baseball Pitchers: A Prospective Cohort Study.	Orthop J Sports Med. 2025 Feb 6 ; 13(2):23259671241305607. (オンライン)	Original Article

146	Kakiage H, Hatayama K, Nonaka S, et al	整形外科	Stair climbing ability and postoperative activity in patient-reported outcomes after CR-TKA are more related to handgrip strength than sagittal knee stability.	Arch Orthop Trauma Surg. 2025 Jan 7 ; 145(1):113. (オンライン)	Original Article
147	Hatori Y, Tajika T, Kuboi T, et al	整形外科	Heparin-Induced Thrombocytopenia After Revascularization of Gustilo-Anderson Type IIIC Open Lower Leg Fracture: A Case Report of Subsequent Ischemic Limb Salvage Failure.	Am J Case Rep. 2024 Jun 30 ; 25:e944121. (オンライン)	Case Report
148	Kaneko S, Hashimoto S, Honda A, et al	整形外科	The Usefulness of Posterior Shiny Corner Lesions in the Early Diagnosis of Medial Meniscus Posterior Root Tears.	Cureus. 2024 May 19 ; 16(5):e60605. (オンライン)	Original Article
149	Honda A, Yamana H, Sasabuchi Y, et al	整形外科	Mortality, Analgesic Use, and Care Requirements After Vertebral Compression Fractures: A Retrospective Cohort Study of 18,392 Older Adult Patients.	J Bone Joint Surg Am. 2024 Aug 21 ; 106(16):1453-1460.	Original Article
150	Sakane H, Yonemoto Y, Okamura K, et al	整形外科	Efficacy of switching from originator etanercept to biosimilar YLB113 in real-world patients with rheumatoid arthritis: A retrospective 12 months follow-up study.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2024 May-Aug ; 32(2):10225536241265818.	Original Article
151	Ogawa M, Yokoo S, Yamaguchi T, et al	歯科口腔・顎顔面外科	Treatment strategy for cervical lymph node metastases from early-stage tongue and floor of the mouth squamous cell carcinoma using tumour budding and depth of invasion as predictors.	Clin Oral Investig. 2024 Oct 9 ; 28(11):580. (オンライン)	Original Article
152	Tomaru N, Nakamura H, Makiguchi T, et al	歯科口腔・顎顔面外科	Necrotizing Fasciitis of the Lower Extremity Treated With Continuous Local Antibiotic Perfusion.	Cureus. 2024 Aug 14 ; 16(8):e66865. (オンライン)	Case Report
153	Nakamura H, Makiguchi T, Yamada Y, et al	歯科口腔・顎顔面外科	Surgery With Peripheral Nerve Block Under Dexmedetomidine Sedation for Foot Ulcer.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Nov 22 ; 12(11):e6333. (オンライン)	Original Article
154	Ruan H, Zhang C, Chen S	重粒子線医学センター	Carbon Ion Radiotherapy Reirradiation for Recurrent Malignancy: A Systematic Assessment.	Clin Oncol (R Coll Radiol). 2025 Jun ; 42:103800.	Original Article
155	Ohtaka T, Ando K, Oike T, et al	重粒子線医学センター	The prognostic effect of tumor volume, reduction ratio, and cumulative doses on external beam radiotherapy with central-shielding method and image-guided adaptive brachytherapy for cervical cancer.	Front Oncol. 2024 May 7 ; 14:1366777. (オンライン)	Original Article
156	Kumazawa T, Shiba S, Miyasaka Y, et al	重粒子線医学センター	Lumbosacral Plexopathy After Carbon-ion Radiation Therapy for Postoperative Pelvic Recurrence of Rectal Cancer: Subanalysis of a Prospective Observational Study (GUNMA 0801).	Adv Radiat Oncol. 2025 Feb 7 ; 10(3):101711. (オンライン)	Original Article

157	Horigome E, Musha A, Kubo N, et al	重粒子線医学センター	Re-irradiation With Carbon Ion Beams for Recurrent Adenoid Cystic Carcinoma of the Tongue Base: A Case Report.	Adv Radiat Oncol. 2025 Mar 18 ; 10(5):101761. (オンライン)	Case Report
158	Shiba S, Shimo T, Yamanaka M, et al	重粒子線医学センター	Increased cell killing effect in neutron capture enhanced proton beam therapy.	Sci Rep. 2024 Nov 18 ; 14(1):28484. (オンライン)	Original Article
159	Meng X, Wang P, Liu J, et al	重粒子線医学センター	Dynamic assessment of long-term survival in survivors with stage III non-small cell lung cancer: a novel conditional survival model with a web-based calculator.	Front Med (Lausanne). 2025 Jan 7 ; 11:1491337. (オンライン)	Original Article
160	Meng X, Ju Z, Sakai M, et al	重粒子線医学センター	Normal tissue complication probability model for acute oral mucositis in patients with head and neck cancer undergoing carbon ion radiation therapy based on dosimetry, radiomics, and dosiomics.	Radiother Oncol. 2025 Mar ; 204:110709.	Original Article
161	Sakamoto S, Ando K, Kumazawa T, et al	重粒子線医学センター	Vaginal Metastasis of Colorectal Cancer Treated With Image-Guided Intracavitary-Interstitial Brachytherapy: A Case Report.	Cureus. 2025 Feb 18 ; 17(2):e79253. (オンライン)	Case Report
162	Shiba S, Shiraishi S, Tokuuye K, et al	重粒子線医学センター	Proton-beam Therapy for Locally Advanced Hepatocellular Carcinoma With Inferior Vena Cava Tumor Thrombus: Case Report.	In Vivo. 2024 Jul-Aug ; 38(4):2080-2084.	Case Report
163	Kumazawa T, Ohkubo Y, Mochida K, et al	重粒子線医学センター	Are prophylactic antibiotics required for combined intracavitary and interstitial brachytherapy of gynecologic cancers?	J Radiat Res. 2024 May 23 ; 65(3):387-392.	Original Article
164	Kobayashi N, Oike T, Ando K, et al	重粒子線医学センター	Carbon ion radiotherapy for mesonephric adenocarcinoma of the uterine cervix: a case report.	J Med Case Rep. 2024 May 9 ; 18(1):228. (オンライン)	Case Report
165	Oike T, Okuda K, Haruna S, et al	重粒子線医学センター	Exacerbated Inflammatory Gene Expression After Impaired G2/M-Checkpoint Arrest in Fibroblasts Derived From a Patient Exhibiting Severe Adverse Effects.	Adv Radiat Oncol. 2024 Apr 30 ; 9(8):101530. (オンライン)	Original Article
166	Arii H, Tazawa M, Ibe Y, et al	リハビリテーション部	The neck flexion angle increases with difficulty of tasks performed on a smartphone.	Work. 2025 Apr ; 80(4):1761-1768.	Original Article
167	Yamazaki A, Kiyotani C, Matsumoto K, et al	病理部	Embryonal tumor with multilayered rosettes, DICER1-mutated, showing histologically unique neuronal differentiation after chemoradiotherapy.	Neuropathology. 2025 Jan 14.	Case Report
168	Yashima H, Araki T, Ishikawa Y, et al	薬剤部	Therapeutic drug monitoring of docetaxel administered for breast cancer in a patient receiving rifampicin and clarithromycin to treat nontuberculous mycobacteriosis: A case report.	Mol Clin Oncol. 2024 Nov 27 ; 22(2):12. (オンライン)	Case Report

169	Nakatani Y, Take Y, Yoshimura S, et al	循環器内科	Catheter ablation approach targeting epicardial connections to the right pulmonary vein antrum detected before pulmonary vein isolation.	Heart Rhythm. 2025 Feb ; 22(2):443-451.	Original Article
170	Nakatani Y, Take Y, Sasaki W, et al	循環器内科	Premature contraction with a widespread breakthrough on the left atrial anterior wall: Where is the origin?	HeartRhythm Case Rep. 2024 Jul 10 ; 10(10):714-716. (オンライン)	Case Report
171	Nakatani Y	循環器内科	Editorial to "Impact of intracardiac pattern matching settings on the activation map of accessory pathways using open window mapping".	J Arrhythm. 2025 Mar 25 ; 41(2):e70050. (オンライン)	Original Article
172	Ida A, Ishikawa O, Uchiyama A, et al	皮膚科	A case of dominant dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa with a novel mutation in the hinge region of COL7A1	J CUTAN IMMUNOL ALL.2024 MAY:7:3	Letter
173	Kuriyama Y, Motegi S, Noda S	皮膚科	Case report: Effectiveness of pulsed dye laser in facial redness of atopic dermatitis: a report of three cases	J CUTAN IMMUNOL ALL.2024 AUG:7:4	Original Article
174	NasanOchir M, Uchiyama A, Amalia SN, et al	皮膚科	Human urine-derived stem cells: potential therapy for psoriasis-like dermatitis in mice	J CUTAN IMMUNOL ALL.2024 SEP:7:9	Original Article
175	Takahashi H, Matsuyama T, Kawabata-Iwakawa R, et al	耳鼻咽喉科	ADGRB3-High and POSTN-High Fibroblasts Are Markers of Endotypic Traits in Chronic Rhinosinusitis	IMMUNO-BASEL.2024 DEC:4(4):11	Original Article
176	Sato Y, Ito D, Hayashi N, et al	放射線部	Development of Magnetic Resonance Imaging (MRI) Phantom With Arbitrary T1 Value Using Dextrin Hydrate	APPL MAGN RESON.2024 MAY:55(5):11	Original Article
177	Sato Y, Hayashi N, Takeuchi T, et al	放射線部	Verification of Quantification of Quantitative Susceptibility Mapping for Estimating the Amount of Gadolinium Deposited in the Brain: a Preliminary Phantom Study	APPL MAGN RESON.2024 NOV:55(11):17	Original Article
178	Kokko AP, Chowdhury R, Sherman K, et al	重粒子線医学センター	Understanding the scientific validity of synthetic torpor for radiation research and extended space missions	FRONT SPACE TECHNOL.2024 DEC:5:6	Review
179	Sakai M, Miyajima M, Kawakami Y, et al	重粒子線医学センター	Soft error measurement for carbon ion radiotherapy	NUCL INSTRUM METH B.2024 AUG:553:5	Original Article
180	Shioi I, Ogawa H, Hosoi N, et al	消化管外科	Two-Team Transanal Total Mesorectal Excision and En Bloc Resection of the Lateral Pelvic Lymph Nodes, Main Iliac Vessels, and Pelvic Plexus for Locally Advanced Rectal Cancer With Lateral Lymph Node Metastasis.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2024 Apr 1 ; 34(2):237-241. (オンライン)	Original Article
181	Shiraishi T, Ogawa H, Yamaguchi A, et al	消化管外科	Preoperative factors associated with lateral lymph node metastasis in lower rectal cancer and the evaluation of the middle rectal artery.	Surg Today. 2024 Dec ; 54(12):1472-1481.	Original Article

182	Shioi I, Ogawa H, Naito R, et al	消化管外科	Risks and Outcomes of Early Dose Reduction in Adjuvant CAPOX Therapy for Colorectal Cancer.	Anticancer Res. 2024 Jul ; 44(7):3013–3023.	Original Article
183	Nakazawa N, Sohda M, Ide M, et al	消化管外科	Poorly cohesive gastric cancer with increased epithelial-mesenchymal transition is associated with a poor prognosis.	Oncol Lett. 2024 Jul 3 ; 28(3):420. (オンライン)	Original Article
184	Sano A, Imai Y, Yamaguchi T, et al	消化管外科	Importance of duodenal stump reinforcement to prevent stump leakage after gastrectomy: a large-scale multicenter retrospective study (KSCC DELICATE study).	Gastric Cancer. 2024 Nov ; 27(6):1320–1330.	Original Article
185	Nakazawa N, Sohda M, Endo M, et al	消化管外科	The Gustave Roussy Immune score is a powerful biomarker for predicting therapeutic resistance to chemotherapy in gastric cancer patients.	Cancer Chemother Pharmacol. 2024 Oct ; 94(4):517–522.	Original Article
186	Shiraishi T, Yamaguchi A, Shibasaki Y, et al	消化管外科	Risk Factors of Poor Outcomes After Colorectal Cancer Surgery for Patients With Severe Comorbidities.	Anticancer Res. 2024 Sep ; 44(9):4073–4083.	Original Article
187	Nakazawa N, Sohda M, Hosoi N, et al	消化管外科	Conversion Surgery After Chemotherapy Plus Nivolumab as the First-Line Treatment for Unresectable Advanced or Recurrent Gastric Cancer and a Biomarker Study Using the Gustave Roussy Immune Score: A Multicenter Study.	Ann Surg Oncol. 2024 Dec ; 31(13):9023–9029.	Original Article
188	Kubo N, Suzuki S, Seki T, et al	肝胆膵外科	A case of resected anaplastic carcinoma of the pancreas producing granulocyte-colony stimulating factor with literature review.	Surg Case Rep. 2024 Sep 5 ; 10(1):205. (オンライン)	Original Article
189	Shiraishi T, Nishizawa Y, Nakajima M, et al	消化管外科	Prospective Multicenter Study to Clarify the Frequency of Peristomal Skin Disorders and Appropriate Evaluation Time in Patients with Malignant Rectal Tumors.	Ann Surg. 2024 Sep 6.	Original Article
190	Nakazawa N, Sohda M, Hosoi N, et al	消化管外科	Identification of Biomarkers for Assessing Treatment Efficacy of Chemotherapy plus Nivolumab as the First Line in Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Gastric Cancer: A Multicenter Study.	Oncology. 2025 ; 103(3):201–208.	Original Article
191	Nakazawa N, Sano A, Sakai M, et al	消化管外科	ASO Author Reflections: The Gustave Roussy Immune Score May Be a Useful Biomarker for Conversion Surgery After Chemotherapy Plus Nivolumab as the First-Line Treatment for Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2024 Dec ; 31(13):9052–9053.	Original Article

192	Komine C, Sohda M, Yokobori T, et al	消化管外科	Impact of Tumoral I22-Adrenergic Receptor Expression on Chemotherapeutic Response and Prognosis in Patients with Advanced Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2025 Mar ; 32(3):1913-1924.	Original Article
193	Nakazawa N, Sano A, Kumakura Y, et al	消化管外科	Prognostic Nutrition Index as a Biomarker for Treatment Sensitivity to Chemotherapy and Nivolumab as the First-Line Treatment in Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Gastric Cancer: A Multicenter Study.	Oncology. 2024 Oct 24:1-8.	Original Article
194	Shimizu Y, Shiraishi T, Okada T, et al	消化管外科	A case of completely resected cecum cancer with synchronous metastases to the small intestine found in acute appendicitis.	J Med Invest. 2024 ; 71(3.4):293-297.	Original Article
195	Shiraishi T, Seki T, Katayama C, et al	消化管外科	C-reactive Protein/Albumin Ratio Predicts Short-term Postoperative Outcomes and Intraabdominal Abscess Formation in Colorectal Perforation.	J Anus Rectum Colon. 2024 Oct 25 ; 8(4):375-382. (オンライン)	Case Report
196	Hosoi N, Sohda M, Hara K, et al	消化管外科	Torsion of the wandering spleen with intestinal obstruction.	Clin J Gastroenterol. 2025 Apr ; 18(2):389-392.	Case Report
197	Hosoi N, Shiraishi T, Okada T, et al	消化管外科	Evaluation of preoperative visceral fat area / psoas muscle area ratio and prognosis in patients with colorectal cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Jul 30 ; 9(1):119-127. (オンライン)	Original Article

計197件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 病院長の責務，臨床研究審査委員会の業務内容，臨床研究の申請・依頼等の受付方法，責任医師及び分担医師等の業務内容，他の研究機関から IRB 審査依頼があった場合の対応等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 ○ 「国立大学法人群馬大学利益相反マネジメント規程」 利益相反マネジメント対象の範囲，利益相反マネジメントの対象，利益相反マネジメントのための調査，利益相反申告書等の保存，学外への情報公開，利益相反管理昭和地区部会の設置等 ○ 「群馬大学利益相反管理昭和地区部会内規」 部会の審議事項，部会の組織，部会長の選出，研究科長等への報告等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容 ○ 群馬大学医学部附属病院・昭和地区キャンパス「臨床試験に関する講習会」 治験・臨床研究に関して，大学病院臨床試験アライアンスと共催で，「臨床試験に関する	

講習会」を群馬大学医学部附属病院内で4回開催した。倫理指針で定める受講を研究者及び研究を実施する際の事務に従事する者、研究者の補助業務に当たる者に義務付けている。

〈各回の開催日時、演題、参加人数等〉

第1回 令和6年5月17日（金）17時00分～18時00分 参加者数 367名

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」および本学での研究倫理申請について

群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生

第2回 令和6年5月20日（月）15時00分～16時00分 参加者数 235名

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」および本学での研究倫理申請について

群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生

第3回 令和6年6月27日（木）17時00分～18時00分 参加者数 163名

研究倫理の原則と倫理審査について

群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生

第4回 令和6年12月12日（月）18時～19時 参加者数 161名

臨床研究の質について考えてみよう

広島大学トランスレーショナルリサーチセンター教授

群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター客員教授 杉山大介先生

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では、医学部附属病院の優れた教育機能を十分に活用し、充実した関連病院との連携のもとで、次代を担う実力ある専門医を養成している。具体的には、初期臨床研修で磨いた診療能力をさらに高め、各専門領域の学会認定専門医の取得を目指すための、後期専門研修プログラムを運用している。

当院の後期専門研修プログラム・コース一覧は、下記のとおり。

【令和 6 年度 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修プログラム一覧】

プログラム 運営診療科	プログラム 名	受 入 人 数	プログラム 責任者名	各プログラムで 取得を目指す 基本領域専門医 資格	基本領域専門医資格取得後に可能な サブスペシャルティ研修 (資格名/学会等名)	サブスペ シャルティ 研修 担当医名
循環器内科	群馬大学内 科専門研修 プログラム	30	廣村 桂樹	内科専門医/ 日本内科学会	循環器専門医/日本循環器学会	石井 秀樹
					不整脈専門医/日本不整脈学会	高間 典明
					超音波専門医/日本超音波医学会	小板橋 紀通
					核医学専門医/日本核医学会	中谷 洋介
					心血管インターベンション認定医・専門医/日本心血 管インターベンション治療学会	小保方 優
						小林 洋明
						田村 峻太郎
						反町 秀美
						長谷川 寛
呼吸器・アレ ルギー内科					呼吸器専門医/日本呼吸器学会	前野 敏孝
					アレルギー専門医/日本アレルギー学会	砂長 則明
					感染症専門医/日本感染症学会	古賀 康彦
					気管支鏡専門医/日本呼吸器内視鏡学会	矢富 正清
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	鶴巻 嘉朗
						三浦 陽介
消化器・肝臓 内科					消化器病専門医/日本消化器病学会	浦岡 俊夫
					消化器内視鏡専門医/日本消化器内視鏡学会	栗林 志行
					胃腸専門医/日本消化管学会	田中 寛人
						保坂 浩子
					肝臓専門医/日本肝臓学会	佐藤 賢
					消化器病専門医/日本消化器病学会	山崎 勇一
					消化器内視鏡専門医/消化器内視鏡学会	戸島 洋貴
内分泌糖尿 病内科					内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医/日本内分泌学会 ・日本糖尿病学会	山田英二郎
						堀口 和彦
					糖尿病専門医/日本糖尿病学会	松本 俊一
						吉野 聡
					甲状腺専門医/日本甲状腺学会	石田 恵美
						大崎 綾
腎臓・リウマ					腎臓専門医/日本腎臓学会	廣村 桂樹

チ内科					透析専門医／日本透析医学会	金子 和光 池内 秀和 坂入 徹 浜谷 博子 中里見征央 渡辺 光治
血液内科					血液専門医／日本血液学会	半田 寛 小川 孔幸 宮澤 悠里 小林 宣彦
					血栓止血学会認定医／日本血栓止血学会	
					がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					輸血細胞治療学会認定医／日本輸血・細胞治療学会	
					造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
					エイズ学会認定医／日本エイズ学会	
					脳神経内科	
認知症専門医／日本認知症学会						
循環器外科	群馬大学外 科専門研修 プログラム	24	調 憲	外科専門医／ 日本外科学会	心臓血管外科専門医／心臓血管外科専門医認定機構	阿部 知伸 立石 渉 小西 康信
呼吸器外科					呼吸外科専門医／日本呼吸器外科学会	永島 宗晃 大瀧 容一 河谷菜津子 矢澤 友弘
消化管外科					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	佐伯 浩司 宗田 真 小川 博臣 酒井 真 佐野 彰彦 大曾根勝也 岡田 拓久 白石 卓也 中澤 信博 塩井 生馬
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	
					食道科認定医・食道外科専門医／日本食道学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					臨床腫瘍学会暫定指導医／日本臨床腫瘍学会	
					大腸肛門病専門医・指導医／日本大腸肛門病学会	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					胃腸科認定医・専門医・指導医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会	
					外科指導医／日本外科学会	
肝胆膵外科					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	調 憲 播本 憲史 新木健一郎 五十嵐隆通 塚越真梨子
					肝胆膵外科高度技能専門医／日本肝胆膵外科学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	

					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	石井 範洋 萩原 慶
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					肝臓専門医／日本肝臓学会	
乳腺・内分泌 外科					乳腺専門医／日本乳癌学会	藤井 孝明 尾林紗弥香 荻野 美里 田邊 恵子
					内分泌・甲状腺外科専門医／日本内分泌外科学会	
					外科指導医／日本外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
小児外科					小児外科専門医／日本小児外科学会	大竹紗弥香
					小児がん認定外科医／日本小児血液・がん学会	
					小児泌尿器科認定医／日本小児泌尿器科学会	
					日本周産期・新生児医学会認定外科医／日本周産期・新生児医学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					胃腸科専門医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
泌尿器科	群馬大学泌尿器科専門 研修プログラム	7	鈴木 和浩	泌尿器科専門医 ／ 日本泌尿器科学 会	がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	関根 芳岳 野村 昌史 新井 誠二 藤塚 雄司 宮澤 慶行
					腎移植認定医／日本臨床腎移植学会	
					泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会	
					生殖医療専門医／日本生殖医学会	
					透析専門医／日本透析医学会	
					内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会	
整形外科	群馬大学整形外科専門 研修プログラム	11	筑田 博隆	整形外科専門医 ／ 日本整形外科学 会	スポーツ医／日本整形外科学会	設楽 仁 岡邨 興一 三枝 徳栄 高澤 英嗣 佐々木毅志
					脊椎脊髄病医／日本整形外科学会	
					リウマチ専門医／日本リウマチ学会	
					手外科専門医／日本手外科学会	
					脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会	
皮膚科	群馬大学皮膚科専門研 修プログラム	10	茂木精一郎	皮膚科専門医／ 日本皮膚科学会	皮膚悪性腫瘍指導専門医／日本皮膚科学会	茂木精一郎 安田 正人
					皮膚美容科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会	
眼科	群馬大学眼科専門研 修プログラム	4	秋山 英雄	眼科専門医／ 日本眼科学会	眼科光線力学的療法認定医／眼科 PDT 研究会	秋山 英雄 戸所 大輔 松本 英孝 森本 雅裕
耳鼻咽喉科	群馬大学医学部附属病 院耳鼻咽喉	5	近松 一朗	耳鼻咽喉科専門 医／ 日本耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会	紫野 正人 富所 雄一 新國 摂
					補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会	
					頭頸部がん専門医／日本頭頸部外科学会	

	科専門研修 プログラム			学会	気管食道科専門医／日本気管食道科学会	桑原 幹夫 松山 敏之 多田 紘恵
					アレルギー専門医／日本アレルギー学会	
精神科神経 科	精神科専門 医研修プロ グラム	若 干 名	武井 雄一	精神科専門医／ 日本精神神経学 会	精神保健指定医／厚生労働省	藤平 和吉 須田 真史 武井 雄一 小野 樹郎 村山 侑里
					精神科専門医指導医／日本精神神経学会	
					一般病院連携精神医学専門医／日本総合病院精神医学 会	
					一般病院連携精神医学専門医指導医／日本総合病院精 神医学会	
					精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法)法令によ る資格	
					日本児童青年精神医学会認定医／日本児童青年精神医 学会	
					子どものこころ専門医／子どものこころ専門医機構	
麻酔・集中治 療科	群馬大学医 学部附属病 院 麻酔科専門 研修プログ ラム	25	麻生 知寿	麻酔科専門医／ 日本麻酔科学会	集中治療専門医／日本集中治療医学会	戸部 賢 荻野 祐一 竹前 彰人
					ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会	
					心臓血管麻酔専門医／日本心臓血管麻酔学会	
脳神経外科	群馬大学医 学部附属病 院 脳神経外科 専門研修プロ グラム	8	登坂 雅彦	脳神経外科専門 医／ 日本脳神経外科 学会	脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会	藍原 正憲 清水 立矢 堀口 桂志 本多 文昭 山口 玲 宮城島孝昭 神徳 亮介 中田 聡 島内 寛也
					脳卒中専門医／日本脳卒中学会	
					脳卒中の外科技術認定医／日本脳卒中の外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫 瘍学会	
					機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外 科学会	
					神経外傷専門医／日本神経外傷学会	
					内分泌代謝科専門医(脳神経外科)／日本内分泌学会、 日本間脳下垂体腫瘍学会	
					脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会	
					神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小 児神経外科学会	
小児科	群馬大学医 学部附属病 院 小児科専門 研修プログ ラム	12	滝沢 琢己	小児科専門医／ 日本小児科学会	アレルギー専門医／日本アレルギー学会	滝沢 琢己 奥野はるな 小林 靖子 井上 貴博 緒方 朋実 羽鳥 麗子 石毛 崇 本島 敏乃 堀越 隆伸
					血液専門医／日本血液学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
					腎臓専門医／日本腎臓病学会	
					新生児専門医／日本周産期・新生児医学会	
					小児神経専門医／日本小児神経学会	
					小児栄養消化器肝臓認定医／日本小児栄養消化器肝臓 学会	
					消化器内視鏡専門医／消化器内視鏡学会	

					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	
					子どものこころ専門医／子どものこころ専門医機構	
産科婦人科	群馬大学医学部附属病院 産婦人科専門研修施設 群馬専門研修プログラム	7	岩瀬 明	産科婦人科専門医／ 日本産科婦人科学会	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会 生殖医療専門医／日本生殖医学会 腹腔鏡技術認定医／日本産科婦人科内視鏡学会 内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会 超音波専門医／日本超音波医学会 内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会 女性ヘルスケア専門医／日本女性医学学会 がん治療認定医／日本がん治療認定医機構 婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会	亀田 高志 平川 隆史 池田 禎智 北原 慈和 井上 真紀 平石 光 中尾光資郎 日下田大輔 小林 美央 森田 晶人
放射線科	群馬大学医学部附属病院 放射線科専門研修プログラム	12	大野 達也	放射線科専門医 ／ 日本医学放射線学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会	河村 英将 岡本 雅彦 岡野奈緒子 尾池 貴洋 久保 亘輝 安藤 謙 入江 大介 大西 真弘 小林大二郎 宮坂 勇平
核医学科			対馬 義人	放射線科専門医 ／ 日本医学放射線学会	放射線診断専門医／日本医学放射線学会 核医学専門医／日本核医学会 IVR 専門医／日本 IVR 学会 超音波専門医／日本超音波医学会	樋口 徹也 高橋 綾子 平澤 裕美 徳江 浩之
検査部・感染制御部			木村 孝穂	臨床検査専門医 ／ 日本臨床検査医学会	ICD(インフェクションコントロール・クター)／ICD 制度協議会 感染症専門医／日本感染症学会 人間ドック健診専門医／日本人間ドック学会 超音波専門医／日本超音波医学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会 細胞診専門医／日本臨床細胞学会 消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会 臨床神経生理専門医／日本臨床神経生理学会	徳江 豊 常川 勝彦 柳澤 邦雄 葭田 明弘 青木 智之 加藤 寿光
集中治療部	群馬大学医学部附属病院 集中治療部専門研修プ	5			集中治療専門医／日本集中治療医学会	高澤 知規

	プログラム					
病理部	群馬大学医学部 病理専門研修プログラム	3	小山 徹也	病理専門医／ 日本病理学会	細胞診専門医／日本臨床細胞学会	横尾 英明 伊古田勇人
					分子病理専門医／日本病理学会	
リハビリテーション部	群馬大学リハビリテーション科 専門研修プログラム	3	和田 直樹	リハビリテーション科専門医／ 日本リハビリテーション医学会	脳卒中専門医／日本脳卒中学会	田澤 昌之
					義肢装具専門医／日本義肢装具学会	
救急科	群馬大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム	3	大嶋 清宏	救急科専門医／ 日本救急医学会	集中治療専門医／日本集中治療医学会	大嶋 清宏 澤田 悠輔 一色 雄太 福島 一憲
					腹部救急認定医／日本腹部救急医学会	
					熱傷専門医／日本熱傷学会	
					認定クリニカル・トキシコロジスト／日本中毒学会	
					外傷専門医／日本外傷学会	
総合診療科	群馬大学医学部附属病院 総合診療専門研修プログラム	6	小和瀬桂子	総合診療専門医／ 日本専門医機構	総合内科専門医／日本内科学会（※2年の内科研修追加にて受験資格取得可能）	小和瀬桂子 佐藤 浩子 堀口 昇男
					家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	
					病院総合診療専門医／日本病院総合診療医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
形成外科	群馬大学形成外科研修プログラム	3	牧口 貴哉	形成外科専門医／ 日本専門医機構	形成外科専門医／日本形成外科学会	牧口 貴哉 長谷川泰子
					皮膚腫瘍外科分野指導医／日本形成外科学会	
					再建・マイクロサージャリー分野指導医／日本形成外科学会	
					日本創傷外科学会専門医／日本創傷外科学会	

※形成外科領域については、神戸大学の神戸大学形成外科研修プログラムの連携施設として専門研修が可能です。

専攻医として一般社団法人日本専門医機構が認定する基本領域の専門医の取得を目指す者の身分を、群馬大学医学部附属病院シニアレジデントとしている。

（当院のシニアレジデント制度の特色）

1. 大学病院／関連病院の優れた指導医のもとで、専門医修得に必要な多くの症例／手技を経験できる。
2. サブスペシャリティ分野につながる幅広い経験を積むことができる。
3. 大学院・社会人大学院に入学し、研修と研究の両立を目指すことができる。
4. 国内及び海外留学を積極的に勧める。
5. 希望者は、群馬大学医学部附属病院医師ワークライフ支援プログラムを利用することが可能である。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	161人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石井 秀樹	循環器内科	教授	30年	
前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	准教授	31年	
浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	教授	30年	
山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	講師	25年	
廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	教授	35年	
半田 寛	血液内科	准教授	34年	
池田 佳生	脳神経内科	教授	32年	
武井 雄一	精神科神経科	准教授	23年	
滝沢 琢己	小児科	教授	29年	
佐伯 浩司	消化管外科	教授	30年	
調 憲	肝胆膵外科	教授	38年	
阿部 知伸	呼吸器外科	教授	32年	
阿部 知伸	循環器外科	教授	32年	
藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	准教授	24年	
佐伯 浩司	小児外科	教授	30年	
筑田 博隆	整形外科	教授	29年	
茂木 精一郎	皮膚科	教授	25年	
鈴木 和浩	泌尿器科	教授	36年	
秋山 英雄	眼科	教授	28年	
近松 一朗	耳鼻咽喉科	教授	35年	
大野 達也	放射線治療科	教授	31年	
対馬 義人	放射線診断核医学科	教授	36年	
岩瀬 明	産科婦人科	教授	31年	
麻生 知寿	麻酔・集中治療科	准教授	29年	
横尾 聡	歯科口腔・顎顔面外科	教授	37年	
登坂 雅彦	脳神経外科	准教授	31年	
木村 孝穂	検査部	准教授	32年	
徳江 豊	感染制御部	准教授	39年	
対馬 義人	放射線部	教授	36年	
高澤 知規	集中治療部	准教授	28年	
横尾 英明	病理部	教授	32年	
大嶋 清宏	救急科	教授	33年	
小和瀬 桂子	総合診療科	教授	29年	
和田 直樹	リハビリテーション部	教授	29年	
牧口 貴哉	形成外科	講師	25年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ キャリア専門コース(がん看護コースⅠ―①) 2024 年 8 月～9 月(動画配信)…63 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅠ―②) 2024 年 8 月～9 月(動画配信)…62 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅠ―③) 2024 年 8 月～9 月(動画配信)…60 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅠ―④) 2024 年 8 月～9 月(動画配信)…60 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅠ―⑤) 2024 年 8 月～9 月(動画配信)…60 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅡ―1) 2024 年 5 月～6 月(動画配信)…51 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅡ―2) 2024 年 5 月～6 月(動画配信)…50 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅡ―3) 2024 年 5 月～6 月(動画配信)…51 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅡ―4)2024 年 5 月～6 月(動画配信)…50 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅡ―5) 2024 年 5 月～6 月(動画配信)…49 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅢ―①) 2024 年 7 月 29 日…4 名 ・ キャリア専門コース(がん看護コースⅢ―②) 2024 年 9 月 20 日…4 名 ・ キャリア専門コース(糖尿病看護コースⅠ―①) 2024 年 11 月(動画配信)…40 名 ・ キャリア専門コース(糖尿病看護コースⅠ―②) 2024 年 11 月(動画配信)…38 名 ・ キャリア専門コース(糖尿病看護コースⅠ―③) 2024 年 11 月(動画配信)…38 名 ・ キャリア専門コース(糖尿病看護コースⅡ―①) 2024 年 7 月(動画配信)…13 名 ・ キャリア専門コース(糖尿病看護コースⅡ―②) 2024 年 7 月(動画配信)…11 名 ・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅠ―①) 2024 年 10 月(動画配信)…49 名 ・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅠ―②) 2024 年 10 月(動画配信)…49 名 ・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅡ―①) 2024 年 8 月(動画配信)…14 名 ・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅡ―②) 2024 年 8 月(動画配信)…13 名

・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅡ―③) 2024 年 8 月(動画配信)…13 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ―①) 2024 年 9 月(動画配信)…35 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ―②) 2024 年 9 月(動画配信)…34 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ―③) 2024 年 9 月(動画配信)…34 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ―①) 2024 年 6 月(動画配信)…12 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ―②) 2024 年 6 月(動画配信)…12 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ―③) 2024 年 6 月(動画配信)…13 名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅢ―①) 2024年11月7日…2名 ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅢ―②) 2025年1月8日…2名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ リーダーシップⅠ 2024 年 6 月～7 月…36 名 ・ リーダーシップⅡ 2024 年 11 月 29 日…33 名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・緩和ケア研修会 2024 年 4 月 27 日:14 名 ・がん診療連携協議会研修会(緩和ケアについて) 2024 年 9 月 18 日:137 名 ・がん看護基礎講座 2024 年 11 月 16 日:86 名(うち院外 54 名) ・相談員研修 2024 年 12 月 14 日:27 名 ・がん登録実務者研修 2025年2月8日:41名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長：齋藤 繁
管理担当者氏名	総務課長：四方田 睦人、医事課長：野村 恵子

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	システム統合センター 薬剤部
		手術記録	システム統合センター 医事課
		看護記録	システム統合センター 医事課
		検査所見記録	システム統合センター 医事課
		エックス線写真	システム統合センター 各診療科
		紹介状	システム統合センター 医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	システム統合センター 医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況		
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 管理運営課	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 管理運営課		
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課、医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室（大学本部）
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課（大学本部）

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長: 齋藤 繁
閲覧担当者氏名	総務課長: 四方田 睦人
閲覧の求めに応じる場所	医学部附属病院
閲覧の手続の概要 ・閲覧希望者がいた場合には、総務課にて対応している	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 当院における医療安全管理の基本的考え方：安全文化の育成 2. 医療安全を推進するための委員会等の設置 3. 職員に対する研修の基本方針 4. 医療事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針） 7. 患者相談への対応に関する基本方針 8. その他の医療安全のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： （1）医療業務安全管理委員会 1. 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従事者への周知に関すること。 3. 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療の質・安全管理部への報告の実施の状況の確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の過程では必要がない処置又は治療が必要となったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療の質・安全管理部への報告の実施の状況に関する確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための当院職員への研修及び指導に関すること。 7. 医療の質・安全管理部が行う医療安全に資する診療内容のモニタリングの内容に関すること。 8. 本院の全職員に受講させる医療安全に関する研修に関すること。 9. 医療業務の安全管理指針に係る病院長への提言に関すること。 10. 関係機関への報告及び講評に係る病院長への提言に関すること。 11. その他医療業務の安全管理に関する必要な事項。 （2）医療事故防止専門委員会 1. 医療事故防止マニュアルに関すること。 2. インシデントに係る調査及び改善に関すること。 3. 医療事故防止のための資料収集に関すること。 4. 職員に対する医療事故防止の啓発及び研修に関すること。 5. その他医療業務の安全管理に関する必要な事項。	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年16回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 医療安全職員研修 ・ 『特定機能病院に求められる医療の質・安全（１）』『インシデント発生時、迷惑・暴言暴力患者の対応の流れ』 ・ 『特定機能病院に求められる医療の質・安全（２）』『患者対応における対話の重要性』 ○ 医療安全セミナー ・ 『安全で確実な鎮痛・鎮静』 ・ 『院内肺血栓栓塞症予防マニュアルについて、マンガで学ぶ肺血栓栓塞症予防』 ・ 『医療安全に活かすせん妄の基礎知識』 ・ 『ティーチバック』 ・ 『群大病院の医療事故とその後のあゆみ』 ○ Team STEPPS®研修 9回 ○ 医療対話推進者研修 ○ ポケットマニュアルe-learning ※各研修はオンデマンドで配信し年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※年2回の受講が義務付けられている医療安全職員研修の受講率は100%である。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 各部門にリスクマネージャー80名を配置（R6.4.1現在） ○ 部署、医療の質・安全管理部、各委員会において分析、対策立案を行い、実施状況を確認。院内に向けて、リスクマネージャー会議内容及び『院内医療安全情報』を発信している。医療の質・安全管理部及び各種委員会での検討事項を各部署にフィードバックし、日々及び定期の巡視等でその実施状況を確認している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 病院感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会及び感染制御部 3. 職員研修 4. 病院感染発生の状況調査並びに病院感染発生時の対応 5. 病院感染対策マニュアル 6. 患者への情報提供と説明 7. その他の病院感染対策の方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1. 感染対策のための指針の策定に関する事項 2. 感染対策の実施及び指導に関する事項 3. 問題となる感染症の発生時及び発生が疑われる場合における病院長への状況報告及び速やかな発生原因の分析、改善策の立案及び実施並びに周知に関する事項 4. 立案した改善策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事項 5. その他感染対策に関し必要な事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 『アフターコロナ時代の感染対策と抗菌薬』 ○ 『群馬大学医学部附属病院の抗菌薬適正使用と抗菌薬使用サーベイランス』『医療関連感染サーベイランス』『当院における耐性菌の推移と血液培養サーベイランス結果について』 ※各研修はオンデマンドで配信し年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※年2回の受講が義務付けられている感染対策職員研修の受講率は100%である。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 毎週感染制御部ミーティングで各部署の感染症の発生状況を確認し、感染対策及び感染症治療の内容を検討し、問題点がある場合は現場へICT巡視及びAST巡視を通じてフィードバックしている。 ○ 4職種で構成されたICTメンバーによる院内ラウンドを毎週行い、患者毎の感染対策の遵守状況や環境巡視を行い改善につなげている。 ○ 医療関連感染サーベイランスは、SSI、BSI、UTI、VAEを実施し、プロセスサーベイランスでは手指衛生向上のため、手指消毒剤の消費量や遵守率を確認している。また、結果を分析し対象部署へフィードバックを行い改善に努めている。 ○ 抗菌薬適正使用支援として、感染症治療に関するコンサルテーション、血液培養陽性者および広域抗菌薬使用患者のスクリーニングを毎日行っているほか、毎週ASTラウンドを行ない抗菌薬適正使用の推進を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： ○ 新入職者全員を対象にした医薬品の取扱いについての講義を実施 ○ 看護部開催の新人看護師を対象にした「静脈注射研修会」の講義(注射薬(ハイリスク薬)の取扱い等を担当 ○ 全職員を対象とした医薬品安全管理研修を実施	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (☒有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」に基づいた業務の実施状況について、チェックリストにより毎月確認している。 ○ 医療業務安全管理委員会にて実施状況を報告している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ○ ランバート・イートン重症筋無力症症候群に対する3・4ジアミノピリジン内服 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 処方箋の疑義照会による情報把握 ○ 病棟担当薬剤師からの情報提供 ○ ガイドライン等で記載があるが適応の無い場合は、未承認新規医薬品等の提供に関する実施申請書(B)の受理による適応外使用の把握。 ○ 未承認新規医薬品等評価委員会で承認された未承認薬や適応外の医薬品の使用状況の確認と把握。 ○ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信(PMDAメディナビ) ○ 製薬企業のMRからの情報収集	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
③ 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年45回 (ME機器等) 年8回 (放射線機器)
・ 研修の主な内容： ○ 臨床工学部が管理している医療機器（5品目）については、e-learningにて対象機器毎に受講対象者を決めて実施している。内容は、装置の有効性・安全性および操作方法・トラブル対応・保守点検等について受講者に対し説明している。新規導入および現場職員からの研修依頼に対し、装置の基本的操作、特徴等について説明を実施している。 ○ 放射線治療部門（リニアック及びクラス）は、新規スタッフに対しそれぞれ1回、定期研修をそれぞれ2回実施。重粒子部門は、定期研修を2回実施。以上のべ8回の研修を開催した。 ○ 新規研修会の対象者は、部門に配置された診療放射線技師であり、内容は、装置の有効性、使用方法、不具合対応、法令遵守の項目について、部門主任が講師となり研修を実施した。 ○ 定期研修は、令和6年度からe-learning方式をとり定期研修6回は受講率100%であった。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○ 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、除細動装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニター、下肢圧迫装置、電気メス、麻酔器、患者体温管理装置、手術台、内視鏡装置等について、年間点検スケジュールを策定し、それに沿って点検を実施している。 ○ 点検内容は、外装点検、各動作点検、警報動作確認を実施。人工心肺、人工呼吸器、血液浄化装置、麻酔器等は、年1回メーカーに保守点検を依頼している。 ○ リニアック、クラス、重粒子線治療装置は保守契約を結び保守点検を実施。End of support (EOS) となった機器については、スポット点検にて保守を実施している。 ○ 放射線部保有のクラスⅡの装置については、保守契約、スポット点検、自主点検により保守を実施している。 ○ 隔月で開催されている臨床工学部運営委員会にて、保守点検計画及び保守点検の実施状況を報告している。
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ○ PMDA及びメーカー担当者からの情報などは、臨床工学部運営委員会（隔月開催）にて医療機器安全管理責任者に報告している。 ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○ 未承認等の医療機器を使用する際または医療機器の適応外使用する際は、担当医が先端医療開発センターに申請し、同センターから臨床倫理委員会専門委員会に諮って審議し、その結果に基づき同センターが使用について決定した後に、先端医療開発センターから診療科等の長に通知するとともに病院長に報告している。臨床倫理専門委員会に医療機器安全管理責任者が委員となっている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ メーカー提供の安全情報について臨床工学部運営委員会にて報告・周知を行う。 ○ 臨床工学部にて運用している機器管理システムに放射線機器の登録を実施。院内の機器の円滑な管理のため情報共有・機器棚卸を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○ 副病院長を医療安全管理責任者に選任し、医療業務安全管理委員会において下記部門及び責任者から医療安全に関する報告を行わせ、状況を確認している。 医療安全管理部門 = 医療の質・安全管理部 医療安全管理委員会 = 医療業務安全管理委員会 医薬品安全管理責任者 = 薬剤部長 医療機器安全管理責任者 = 臨床工学部長	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（ 7名） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者の指示により、現在は薬剤部 DI センター担当者(DI センター主任)が担当している。採用医薬品について、医薬品添付文書情報の確認、医薬品医療機器総合機構からのメール受信、医薬品製造販売業者や行政機関、学術雑誌からの情報収集を行い管理している。また情報収集した内容で周知が必要と思われる情報については、処方医や診療科への書面の周知の他、毎月発行しているDI ニュースで院内職員に周知している。なお、緊急性のある場合には全職員へのメール送信も実施している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤部 DI センター担当者が未承認薬等の使用に関する状況を把握している。使用に関する情報は、薬剤師 GRM や、薬剤部から委員として出席している未承認新規医薬品等評価委員会等から収集している。 ガイドライン等に記載はあるが未承認の医薬品については、手順に従って未承認新規医薬品等の提供に関する実施申請書（B）を先端医療開発センターで受理し、医薬品安全管理責任者、医薬品安全管理副責任者で確認し把握している。 ・ 担当者の指名の有無 ☒ 有 ・ 無 ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部、職種 薬剤師(DI センター主任)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ☒ 有 ・ 無 ） ○ 「群馬大学医学部附属病院医療行為等の説明及び同意の取得に関する規程」	

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 1. 医療行為等の説明に関する責任者の指定（医療の質・安全管理部長） 2. 説明書による説明及び同意書の取得が必要な医療行為等の明示 3. 説明内容 4. 人権及び自己決定権の尊重 5. 同席者 ○ その他、「インフォームド・コンセントに関する指針」において、看護師の同席や役割、カルテ等への記録方法も含め、具体的に明示している。 ○ 侵襲的医療行為に関する説明同意文書については、必要な事項を網羅した書式及び形式を整えた「雛型」を各診療科等に明示し、これを基に各診療科等で作成した説明同意文書を臨床倫理委員会専門委員会で承認する体制を構築している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ・ 無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○ 診療情報管理部長が診療録等の管理に関する責任者を兼任しており、そのもとで以下の業務を行っている。 ○ 診療録の記載内容について、多職種によるピアレビューを年 2 回実施している。その結果を診療科にフィードバックし、また評価の低い診療科には、改善計画書の提出を求めている。 ○ 診療情報管理士によるカルテレビューを、各診療科から概ね 5 例ずつ抽出し行っている。年 2 回診療情報管理委員会でフィードバックしている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ・ 無
・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 1. 医療の質に関すること。 2. 安全管理委員会、事故防止専門委員会、事故調査専門委員会及びリスクマネージャー会議の審議事項に係る助言並びに当該会議等の資料・議事録の作成及び保存等庶務的事項に関すること。 3. 医療事故発生時の即時対応並びに事故調査専門委員会開催の判断に関すること。 4. 事故等に関する診療録・看護記録等への正確かつ十分な記載についての確認・指導に関すること。 5. 患者・家族への説明及び事故発生時の対応状況についての確認・指導に関すること。 6. 事故等の原因究明の適切な実施についての確認・指導に関すること。 7. インシデント及びアクシデント報告書の管理及び即時調査・分析に関すること。 8. ゼネラルリスクマネージャーの育成に関すること。 9. 医療安全に係る連絡調整並びに医療安全対策の推進に関すること。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。	

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（36 件）、及び許可件数（36 件）
※同一症例は除いています。
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：高難度新規医療技術の使用の決定、実施の支援及びモニタリングなど
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（18 件）、及び許可件数（17 件）
※委員会に申請者が欠席し審議ができず、その後申請を取り下げたため
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：未承認新規医薬品等の使用（保険適用外使用も含む）の決定、実施の支援及びモニタリングなど
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 462 件
 - ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 405 件
 - ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 死亡事例は全て医療の質・安全管理部に報告させ、医療業務安全管理委員会に報告するよう徹底している。
- 上記に加えて死亡症例検証委員会で全死亡症例を詳細かつ効果的に検証している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：三重大学医学部附属病院 ） ・ 無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：名古屋市立大学病院 ） ・ 無）
- ・ 技術的助言の実施状況

1. 医療安全・有害事象の検討

- ・ 医療安全部門は、死亡症例以外にも、事故防止にも取り組んでいるので、業務過多になっていないかという印象を受けました。各部門の部長、リスクマネージャーの方も、協力的である印象は受けましたので、院内全体の協力を得て、業務が分担できているのであれば、現在のよい取り組みを継続していただければと思います。

2. 医薬品・未承認新規医薬品等

- ・ 禁忌使用時の処方に関しては完全に処方不可とする仕組みはないとのことであったため、何らかのルール作り、場合によっては処方不可とする仕組みなどがあるとよいと思います。
- ・ 簡易審査とするか、委員会での本審査とするかの判断が、実際には評価部門長の判断となっているようですので、部門全体での検討判断がなされるとよいと思います。
- ・ 承認された申請に関して有効期限が定められていないということでしたが、診療報酬改定等で保険承認の状況も変わることがあるため評価部門として状況を把握するためにも、期限の設定等は今後の課題かと思います。

3. 高難度新規医療技術

- ・ 当該診療科からの申請はないが「高難度」に相当する技術である可能性があることを当該診療科以外から担当部門に報告する仕組みについて、手術室、臨床工学室、医事課など関連職種から連絡する仕組みがあってはどうか。
- ・ 診療科からの申請期限（例：原則手術予定日の○か月前）を定めておくと、部門・委員会での審議時間の確保がよりできると考えます。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

- 「群馬大学医学部附属病院医療安全管理指針」（令和5年11月28日改訂・施行：医療安全管理委員会）の「7）患者相談への対応に関する基本方針」に記載するとおり、医事課が主体となり、医療の質・安全管理部、患者支援センターと連携して対応している。患者相談の一次対応の組織としては、「群馬大学医学部附属病院患者相談窓口設置要項」（平成31年2月4日制定）により、患者支援センター長を責任者とし、医師、看護師、事務職員及びソーシャルワーカーからなる患者相談窓口を設置。相談内容により各部署に振り分け対応している。そのためのフローを整備しているほか、相談内容とその対応についての検討を行うカンファレンスを原則週1回実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- 病院の新規採用職員研修において、医療安全の基本等について、医療の質・安全管理部長による研修を実施している。
- 医療安全・感染対策職員研修に加え、最近のトピックや改革関連をテーマにした安全セミナーを開催している。また、医療事故防止ポケットマニュアルの習熟度を確認する研修をe-learning形式で、医療職必須の研修として実施している。

- 各研修は、一部を除きオンデマンドで配信し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。
- 令和6年9月17日から20日にかけて「医療安全週間」を実施し、その中で、医療事故被害者の方を講師として講演会を実施した。また、医療安全週間中は、各部門から活動紹介のポスター展示や医療安全に関する標語の掲示を行った。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○ 2024年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）

- ・ 令和6年12月9日 病院長（管理者）
- ・ 令和6年12月12日 臨床工学部長（医療機器安全管理責任者）
- ・ 令和6年12月12日 放射線部長（放射線安全管理責任者）
- ・ 令和6年12月13日 副病院長（医療安全管理責任者）
- ・ 令和7年1月17日 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

評価機関：日本医療機能評価機構

機能種別：主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」

受審日：訪問審査 令和5年12月13日～15日

補充的な審査 令和6年5月9日

確認審査 令和7年4月28日

再審査 受審予定

認定期間：令和6年1月26日～令和7年2月28日

交付日：令和6年7月12日

初回認定：平成16年1月26日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページから日本医療機能評価機構のホームページへリンクするように設定しており、評価に

基づき改善のために講ずべき措置の内容等の評価の詳細を公表している。

- ・ 病院機能評価認定について | 群馬大学医学部附属病院

https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10787

- ・ 評価を踏まえ講じた措置

(1) 倫理的な課題の把握と対応の標準化について

臨床の場で発生している倫理的課題を把握し、病院としての方針や対応を継続的に検討する仕組みを整備するため、臨床倫理委員会専門委員会の下に倫理コンサルテーションチームを設置した。

(2) 返書について

「返書作成及び管理・運用に係る取扱いについて」を一部見直し運用を開始した。

(3) デバイスサーベイランスについて

全部署に対しデバイスサーベイランス（BSI、UTI、VAE）を開始し、ベースラインの把握と改善への取組を行い、医療関連感染の低減を目指す。

(4) BLS 訓練について

院内BLS研修を継続的に実施するため、e-learningと実技研修により技術を担保する仕組みを構築し、全職員が3年ごとに受講することとした。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医師免許を有している者
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
具体的には医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等
3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者
具体的には、当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力等
4. これまで推進してきた医療の質の保証や医療安全に係る改善・改革を継続するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、医療安全文化の醸成・充実や患者参加型医療の推進等について、評価・効率化・改良等も加えながら実行する姿勢と指導力等
5. 当院に求められる使命を遂行するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、大学の附属病院としての使命である、診療・教育・研究の充実等のもとより、国立大学法人群馬大学の第4期中期目標に記載された医学部附属病院に関する次の目標を継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

国立大学法人群馬大学第4期中期目標 抜粋

〔 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。 〕

- ①高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、患者の権利に配慮し、医療安全を第一に考えた患者中心の質の高い医療を安定的に供給するとともに、医療安全の文化を広く発信する。
 - ②我が国の公共政策を踏まえ、群馬県の中核病院として群馬県と連携し持続可能な地域医療体制の構築に寄与する。
 - ③地域特性に根差し、かつ国際社会に貢献しうる医師及び医学研究者等の養成を行うとともに、未承認医療機器や保険未収載機器等の臨床試験を推進するなど先端的な医療分野を先導し、地域の中核となって活躍できる医療人を養成する。
6. 群馬県の中核病院として、地域医療に貢献するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、群馬県や群馬県医師会等とも連携し、地域の中核病院として県域全体の医療に貢献すること等について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 公表の方法

○大学のホームページに掲載

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無			有・無	
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 ○大学のホームページに掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
坂本 淳一	群馬大学・理事	○	(細則第1号 学長が指名する理事)総務・財務の担当理事であるため。	有・無
調 憲	群馬大学・大学院 医学系研究科長		(細則第2号 医学系研究科長)群馬大学医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号により医学系研究科長と定めているため。	有・無
河村 恵美	群馬大学・医学部 附属病院看護部長		(細則第3号 医学部附属病院から選出された教員又は職員)群馬大学医学部附属病院に看護師として長年勤務し、附属病院の状況に詳しく看護師を代表した立場であるため。	有・無
北川 雄光	慶應義塾・常任理事		(細則第4号 学外有識者)慶應義塾大学病院長などを歴任し、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有しているため。	有・無
山口 育子	認定NPO法人さ さえあい医療人権 センターCOML ・理事長		(細則第4号 学外有識者)厚生労働省の大学附属病院等のガバナンスに関する検討会の構成員を務められるなど医療安全に対する高い識見を有しているため。	有・無
永井 良三	自治医科大学・ 学長		(細則第4号 学外有識者)東京大学医学部附属病院長や自治医科大学長などを歴任し、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有しているため。	有・無
武藤 幸夫	群馬県社会福祉事 業団・理事長		(細則第4号 学外有識者)群馬県健康福祉部長などを歴任し、群馬県の保健・医療・福祉全般に豊富な知識を有しているため。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 ○ 群馬大学医学部附属病院規程において、「病院運営会議」を「管理運営に関する重要事項を審議するため」の機関と位置づけている。 ○ 病院運営会議の審議事項は「群馬大学医学部附属病院運営会議規程」に規定され、病院の医療提供機能、教育研修機能及び研究開発機能を達するための基本的計画に関する重要事項について審議するほか、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 運営方針に関すること。 (2) 中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。 (3) 予算及び決算に関すること。 (4) 人員配置に関すること（事務職員を除く。）。 (5) 施設の設置及び廃止に関すること。 (6) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ○ 円滑な病院運営に資するため、診療科長や部門長等で組織する「臨床主任会議」において、病院運営会議の審議及び報告事項を周知している。また、病院の管理運営について必要な意見を聴くため、各診療科等から選出された中堅層の職位で組織する「病院連絡会議」において、同様に周知するとともに、各診療科等においては、内容をカンファレンス等で広くスタッフに周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有・無 ） ・公表の方法 ○ 本学ホームページ（病院）において掲載 https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒ 有・無 ） ○ 病院運営会議に外部有識者として参画している群馬県病院協会長等から、その都度意見聴取を行い、俯瞰的視点からの意見等を管理及び運営に活かしている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
齋藤 繁	○	医師	病院長
鈴木 和浩		医師	副病院長（医療安全・病床運用担当）
河村 恵美		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
廣村 桂樹		医師	特命副病院長（地域連携・病院機能評価担当）
大嶋 清宏		医師	病院長補佐（保険診療・防災担当）
対馬 義人		医師	病院長補佐（院内環境・労務担当）

池田 佳生		医師	病院長補佐（広報・卒後研修・教育担当）
佐伯 浩司		医師	病院長補佐（医療機器安全管理担当）
渡邊 恭令		事務職員	病院長補佐（施設担当）
高 橋 明		事務職員	病院長補佐（財務・管理担当）
横 尾 聡		歯科医師	特命病院長補佐（歯科医療）
山本 康次郎		薬剤師	特命病院長補佐（薬事）
小和瀬 桂子		事務職員	特命病院長補佐（ダイバーシティ推進）
中 嶋 清美		技術職員	検査部副部長
須藤 高行		技術職員	放射線部副部長
鈴木 康彦		事務職員	特命病院長補佐（渉外）
西松 輝高		病院顧問	群馬県病院協会長
田村 遵一		病院顧問	群馬パース大学教授

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
 - 本学ホームページ（病院）において掲載
https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799
- ・ 規程の主な内容
 - 病院の目的、病院長の業務、病院長を補佐する各幹部職員の業務、病院運営会議ら各種会議体の役割、病院に設置される診療科・診療施設等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長…病院長の職務を補佐し、病院長不在の時はその職務を代行する。医療安全管理責任者としての役割も負う。
 - 病院長補佐…病院長が指示する管理運営等に関する個別具体的事項について、企画・立案及び連絡調整等を行う。
 - 病院顧問…病院の診療及び経営に関する諸課題や重要事項について、助言を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 2024 年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）
令和 6 年 12 月 9 日 病院長（管理者）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	☒ 有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ※令和 6 年度実績 ・ 活動の主な内容： ○ <令和 6 年度第 1 回病院監査委員会 令和 6 年 11 月 26 日> (議事内容) 1 副委員長の指名について 2 医療安全に係る業務の状況について (1) インフォームドコンセント委員会の設置 (2) 医療安全週間 (3) 患者参加型医療推進委員会 (4) 医薬品安全情報 (5) 10 年以上経過機器等の現況調査 (6) 高難度新規医療技術等審査状況 3 院内視察 ○ <令和 6 年度第 2 回病院監査委員会 令和 7 年 3 月 5 日>※Web 会議形式で開催 (議事内容) 1 前回の提言に対する対応状況 2 医療安全に係る業務の状況について (1) インフォームドコンセント委員会の構成員について (2) 患者参加型医療推進に向けたアンケートの推移について (3) 患者ご意見箱の状況について 3 カルテ共有の外来への拡大について ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (☒ 有・無) ・ 委員名簿の公表の有無 (☒ 有・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 (☒ 有・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有・無) ・ 公表の方法： ○ 本学ホームページにおいて掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者団体連合会 理事長 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長		患者団体の代表として多くの経験及び医療の在り方に対しての高い識見を有し、主に医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務所 弁護士		弁護士活動を通じた医療安全等の分野で高い識見を有し、また本院の医療事故調査委員会の外部委員の経験から意見を述べるができる者	有・ ☒ 無	1
川原 武男	社会福祉法人群馬県社会福祉協議会 会長		県域の健康福祉行政に豊富な経験を有する立場及び医療を受ける立場から意見を述べるることができる者	有・ ☒ 無	2
相馬 孝博	国立大学法人千葉大学 医学部附属病院 医療安全管理部 部長	○	医師及び医療安全管理部門の長として医療安全の分野で高い見識を有する立場から意見を述べるができる者	有・ ☒ 無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		県域の医療・社会福祉に豊富な経験と知見を有し、医学教育に対しても高い識見を有する立場から意見を述べるができる者	有・ ☒ 無	1

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

○ 病院長が行う病院運営が法令に適合することを確保するため、監査室（大学本部）が学長の命により行う内部監査で、法令の遵守状況を踏まえた病院運営の取組みに対する有効性を検証し、適時に見直しを行う。

○ 監査室長（兼法務・コンプライアンス室長）及び室員が、病院運営会議の議事録及び資料の確認を行う。

・専門部署の設置の有無（☒ 有 ☐ 無）

○ 群馬大学監査室

・内部規程の整備の有無（☒ 有 ☐ 無）

○ 「群馬大学内部監査規程」

・内部規程の公表の有無（☒ 有 ☐ 無）

・公表の方法

○ 本学ホームページにおいて掲載

<https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/>

https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ○ 病院監査の視点から、監査室長（兼法務・コンプライアンス室長）が病院長巡視及び医療業務安全管理委員会に毎回出席し、医療現場の視察、スタッフからの生の意見の聞き取り及び医療事故と再発防止策の確認並びに医療安全の確認等を実施している。 ・ 会議体の実施状況（ 年38回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有・無 ）（ 年12回 ）※令和6年度実績 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有・無 ） ○ 国立大学法人群馬大学役員会規則 ○ 国立大学法人群馬大学理事に関する申合せ ・ 公表の方法 ○ 本学ホームページにおいて掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

○ 職員用のご意見箱や多様な内部通報方法を構築している。

・ 通報件数（年 0 件）

○ 令和 6 年度実績（職員用のご意見箱から 0 件）

・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

○ 学外の弁護士が対応する医療安全に関する外部相談（通報）窓口を設置している。

「国立大学法人群馬大学公益通報者保護等規程」に、秘密の保持に配慮した通報の授受等必要な事項を定めている。

また、「群馬大学医学部附属病院職場改善のためのご意見等に関する申合せ」を定め、職場改善のための意見を授受する専用の窓口を設けている。

・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 周知の方法

○ 病院運営会議、臨床主任会議等で周知した。さらに、内部通報ホットラインについては、名刺サイズの周知のためのカードを作成し、全教職員に配布している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
各種がんの治療方針等について，診療科等の枠を超えた多職種で検討するがんサージカルボード体制を整備。	
がんサージカルボード指針に従い，担当する診療科のみならず，関連する診療科の医師，薬剤師，看護師等の職種が参加する。	